貝塚市埋蔵文化財調査報告　第50集

海塚遺跡発掘調査概要

1999.3.31

貝塚市教育委員会

海塚遺跡発掘調査概要

1999.3.31

貝塚市教育委員会

は　じ　め　に

本市の中位段丘にあたる海塚周辺には多くの文化財が残されています。

願泉寺は貴重な近世建築として本堂・表門・太鼓堂は平成５年８月に国の重要文化財に指定されました。周辺には当時の面影を偲ばせる町並みが残されています。大阪湾側には中世末に浄土真宗の自治都市である寺内町が建設され、近世以降発展しました。

海塚遺跡は中世の集落跡として位置付けられています。南海電鉄貝塚駅の周辺という立地から開発が行われ、それに伴う発掘調査では数多くの成果が報告されています。これらの成果は本地域の歴史を明らかにするうえでまことに有意義なことと考えています。

本調査報告書の刊行が、皆様の文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究の一助となれば幸いに存じます。

なお、調査並びに本書作成にあたり、関係各位には多大なご協力を頂き、ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後とも本市における文化財保護行政に対する、一層のご理解とご支援をお願いいたします。

貝塚市教育委員会
教育長　福　井　昱　彦

例　　言

1．本書は、医療法人尚生会西出病院の依頼により、大阪府貝塚市津田315－3・315－8、福田73－5番地に所在する海塚遺跡において実施した医療施設建設に伴う事前発掘調査の概要報告である。

2．調査は確認調査を平成10年2月6日、本格的発掘調査を平成10年7月21日より平成10年9月16日にかけて実施した。なお内業調査については本書刊行をもって終了した。

3．調査にあたっては、医療法人尚生会西出病院より多大なご理解とご協力を得た。記して感謝の意を表す。

4．発掘調査は貝塚市教育委員会社会教育課、吏員木嶋崇晴が担当した。現地・内業調査および本書作成にかかる諸作業については、下記の諸氏の参加者を得て実施したものである。
永橋祥行　江越亮一

5．本書の執筆編集は木嶋が行った。

6．出土遺物、調査記録は貝塚市教育委員会において保管している。

目　　次

はじめに
例　言
第 1 章　調査に至る経過 …… 1
第 2 章　位置と環境 …… 3
第 3 章　調査成果 …… 5
1．調査の概要 …… 5
2．基本層序 …… 5
3．検出遺構 …… 5
(1) 第 1 遺構面 …… 5
鋤　溝 …… 6
SX－1014 …… 6
(2) 第 2 遺構面 …… 6
鋤　溝 …… 6
小 土 坑 …… 6
SD－2001 …… 9
(3) 第 3 遺構面 …… 9
SD － 3006 …… 9
SD － 3004 …… 9
SD － 3005 …… 9
SD － 3001 …… 12
SD － 3009 …… 12
4．出土遺物 …… 13
第 4 章　ま と め …… 15

図 版 目 次

図版１　検出遺構
　　調査区全景
図版２　検出遺構
　１．第１遺構面全景
　２．鋤溝検出状況
図版３　検出遺構
　１．SX－1014検出状況
　２．SX－1014完掘状況
図版４　検出遺構
　１．第２遺構面全景
　２．第２遺構面南側完掘状況
図版５　検出遺構
　１．第２遺構面北側検出状況
　２．第２遺構面北側完掘状況
図版６　検出遺構
　１．SD－2001検出状況
　２．SD－2001完掘状況
図版７　検出遺構
　１．SD－2001完掘状況
　２．SD－2001土層断面（C－７区）
図版８　検出遺構
　１．第３遺構面検出状況
　２．第３遺構面完掘状況
図版９　検出遺構
　１．SD－3004検出状況
　２．SD－3004完掘状況
図版10　検出遺構
　１．SD－3005検出状況
　２．SD－3005完掘状況
図版11　検出遺構
　１．SD－3005
　２．SD－3005土層断面
図版12　検出遺構
　１．SD－3001検出状況
　２．SD－3001完掘状況
図版13　検出遺構
　１．SD－3001検出状況
　２．SD－3001完掘状況
図版14　検出遺構
　１．SD－3001完掘状況
　２．同上
図版15　検出遺構
　１．SD－3001完掘状況
　２．SD－3001土層断面（F－５区）
図版16　検出遺構
　１．SD－3009土層断面（F－６区）
　２．SD－3001土層断面（F－６区）
図版17　出土遺物
　　SD－1010(1)、SX－1014（２、４、５、10)、
　　攪乱（６、28、29）
図版18　出土遺物
　　SD－2001（８、９、30)、第２層（11、
　　18、19、22、31）
図版19　出土遺物
　　第２層（７、12～17、20、21）
図版20　出土遺物
　　SX－1014（26、27)、第３層（３、24、
　　25、32～37）

挿 図 目 次

図１　貝塚市位置図
図２　貝塚市遺跡分布図
図３　調査地位置図
図４　調査区地区割図
図５　基本層序図
図６　第１遺構面 遺構配置図
図７　第２遺構面 遺構配置図
図８　遺構断面図
図９　第３遺構面 遺構配置図
図10　SD－3001・3009断面図
図11　出土遺物

第１章　調査に至る経過

貝塚市教育委員会は平成10年１月29日、医療法人尚生会西出病院より医療施設建設計画地である貝塚市津田315－３・315－８、福田73－５番地における埋蔵文化財の有無についての紹会をうけた。

本遺跡は当該地の南側で平成８年度に発掘調査を行っている。調査成果として奈良時代、中世、近世の各時代の遺物包含層、溝などの遺構を検出した。その後、数度の試掘調査により中世の遺物包含層、遺構が明らかとなっている。また当該地の南西側には水間街道が通っており、その関連性が注目されている。平成８年には遺跡の新規発見として登録を行った。

建設予定地は中世の集落跡として周知されている海塚遺跡の範囲内であった。そこで本市は医療法人尚生会との間で協議を行い、試掘調査を実施することの合意をみた。

試掘調査は平成10年２月６日に本市が実施した。調査1.5×７ｍのトレンチ（11㎡）を予定地の西側に設定した。試掘調査の結果、当該地は中世から近世にかけての遺物包含層を確認した。遺物は土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土した。遺構は検出幅約1.9ｍを測る南北方向の溝を検出した。

この調査結果をもとに、両者で協議を重ねた結果、建設によって破壊をうける760㎡について発掘調査を実施することで合意し、平成10年７月16日に両者の間で覚書を交わした。

調査期間は平成10年７月21日から平成10年９月16日である。

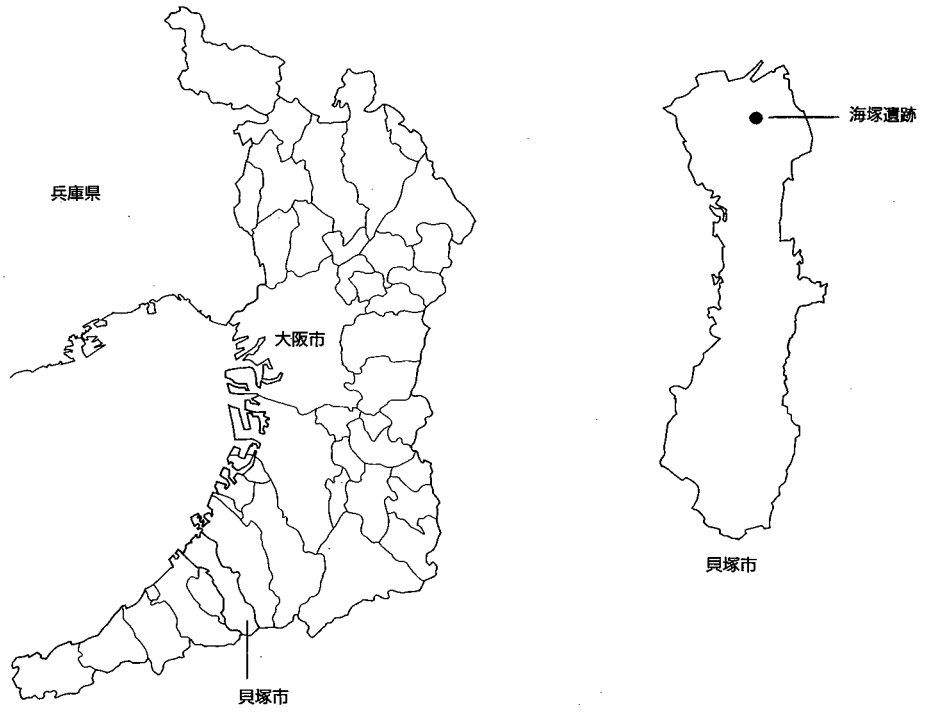
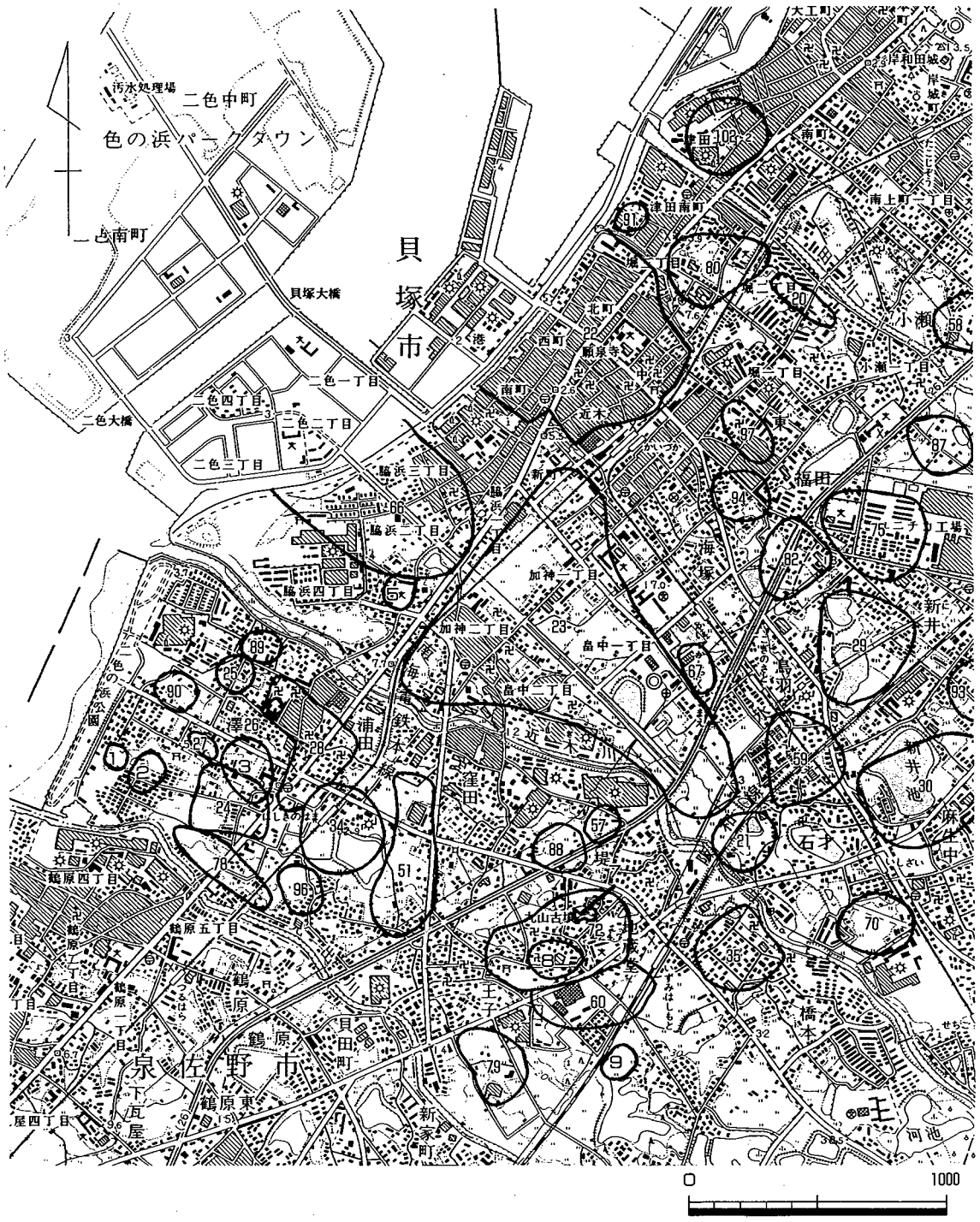


図１．貝塚市位置図



1.沢新出遺跡　2.沢海岸遺跡　3.沢遺跡　5.長楽寺跡　7.丸山古墳　8.地蔵堂廃寺　10.秦廃寺跡　19.泉州麻生塩壺出土地　20.堀遺跡　21.橋本遺跡　22.貝塚寺内町遺跡　23.加治・神前・畠中遺跡24.明楽寺跡　25.沢共同墓地遺跡　26.沢西出遺跡　27.沢海岸北遺跡　28.沢城跡　29.新井・鳥羽遺跡　30.新井ノ池遺跡　31.半田遺跡　34.澱池遺跡　35.積善寺城跡　51.窪田遺跡・窪田廃寺　57.堤遺跡　58.小瀬五所山遺跡　59.石才遺跡　60.王子遺跡　61.土生遺跡　66.脇浜遺跡　67.今池遺跡　72.地蔵堂遺跡　75.新井・鳥羽北遺跡　76.願泉寺本堂　77.道教寺銅鐘　78.沢西遺跡　79.王子西遺跡　80.津田遺跡　82.福田遺跡　87.小瀬遺跡　88.堤三宅遺跡　89.沢新開遺跡　90.沢タナジリ遺跡　91.堀新遺跡　93.麻生中下代遺跡　94.堀秋毛遺跡　95.半田北遺跡　96.沢老ノ塚遺跡　97.東遺跡　102.津田北遺跡　103.久保遺跡　110.海塚遺跡　111.脇浜川端遺跡

図２．貝塚市遺跡分布図

第２章　位置と環境

海塚遺跡は貝塚市の中位段丘にあたる海塚に所在する。北は岸和田市と境する津田川と南は近木川に挟まれた中位段丘に立地する。本遺跡は中世の集落跡として推定されている。調査地は南海電鉄貝塚駅より東へ徒歩５分、大阪府警貝塚警察署の前に位置する。調査地の現状は工場の跡地である。

周辺の遺跡としては、北は中世の集落跡である堀秋毛遺跡、東は中世の集落跡である福田遺跡・東遺跡がある。

中世・近世の遺跡である東遺跡は平成６年度の調査では中世の鋤溝、近世の粘土採掘による土坑・廃棄土坑などを検出した。遺物は近世陶磁器が多数出土した。平成９年度調査では牛・馬などの骨を捨てた土坑を３基検出した。最大のもので直径約４ｍを測る。土坑には骨のほか土器も出土した。骨は牛が一番多く、次に馬である。その他鹿、猪、亀の甲羅、犬などの骨が少量出土した。時期は中世と考えられる。近世の土坑を検出した。そのうちの２基は犬、猫の骨が出土した。その他の土坑で牛、馬の骨が捨ててあった。

西は戦国時代から近世の城郭寺院跡である貝塚寺内町遺跡がある。願泉寺を中心とする近世都市遺跡である。掘立柱建物、土塁、溝、井戸などの近世の遺構を検出した。遺物は碗、皿、摺鉢など多種の陶磁器、焼塩壺、瓦などが多数出土した。

南は弥生時代から室町時代の集落跡である加治・神前・畠中遺跡がある。昭和61年度の調査で

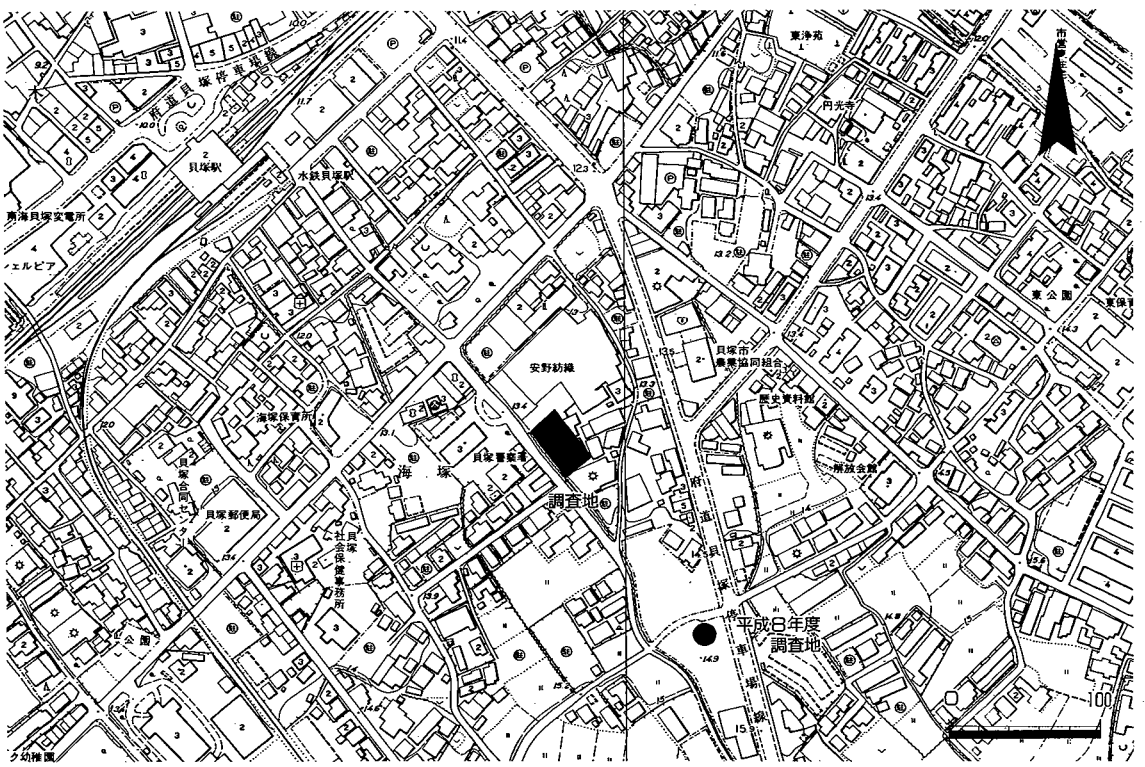


図３．調査地位置図

は古墳時代前期の掘立柱建物、溝、中世の溝、井戸を検出した。平成2年度調査では古墳時代の溝、平安時代では梁行2間、桁行2～3間の掘立柱建物2棟、土坑、溝、中世では梁行2間、桁行3間以上の掘立柱建物、溝、粘土採掘土坑を検出した。平成元年では飛鳥時代の溝、中世の大溝、調査区全域に広がる鋤溝を検出した。平成3年度では飛鳥～奈良時代の掘立柱建物2棟、溝、中世では鋤溝、溝を検出した。平成5年に実施した保健合同庁舎建設に伴なう発掘調査では縄文時代から中世、近世にかけての遺物が数多く出土した。弥生・古墳時代の溝、奈良・平安時代の建物跡、土坑等を検出した。平成6年度では鋤溝、溝、粘土採掘土坑を検出した。これらの調査より飛鳥～奈良時代の集落が存在していた。中世には土地開発が行われ、中世、近世を通じて耕作地が営まれていたことが明らかとなった。

参考資料

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第20集『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要』1991

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第21集『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要』1991

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第26集
『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要　仮称市民文化会館の調査』1993

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第27集
『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要　市庁舎第2別館建設に伴う発掘調査』1993

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第30集
『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要　都市計画道路文化会館山手線建設に伴う調査』1993

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第36集
『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要保健合同庁舎建設に伴なう発掘調査』1996

貝塚市教育委員会　貝塚市埋蔵文化財調査報告　第42集『加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要』1997

第3章　調 査 成 果

1．調査の概要

調査は建設計画に基づき南北約36m・東西約20m、面積760㎡を調査区として設定した。調査区は国家座標基準値X＝－172760•Y＝－58565を基準にして5m×5mに区画し、西に8区を設け（A～I)、南に9区を設けた（1～9)。

2．基本層序

調査区における地層の状況は、第1層は盛土（層厚約0.8m)、第2層は暗灰黄色土（層厚約0.15m)、第3層は灰オリーブ色土（層厚約0.05m)、第4層は褐灰色粘質土（層厚約0.1m)、第5層は黄灰色粘土（地山）である。調査は第5層上面まで行った。

3．検出遺構

第1遺構面では鋤溝、落ち込み、第2遺構面では鋤溝、溝、第3遺構面では溝を検出した。以下主な遺構について詳述する。

(1) 第1遺構面（図6）

第3層上面で検出を行った。遺構面は南から北へ0.19m傾斜し、東西方向はほぼ平坦である。本遺構面では鋤溝、落ち込みを検出した。

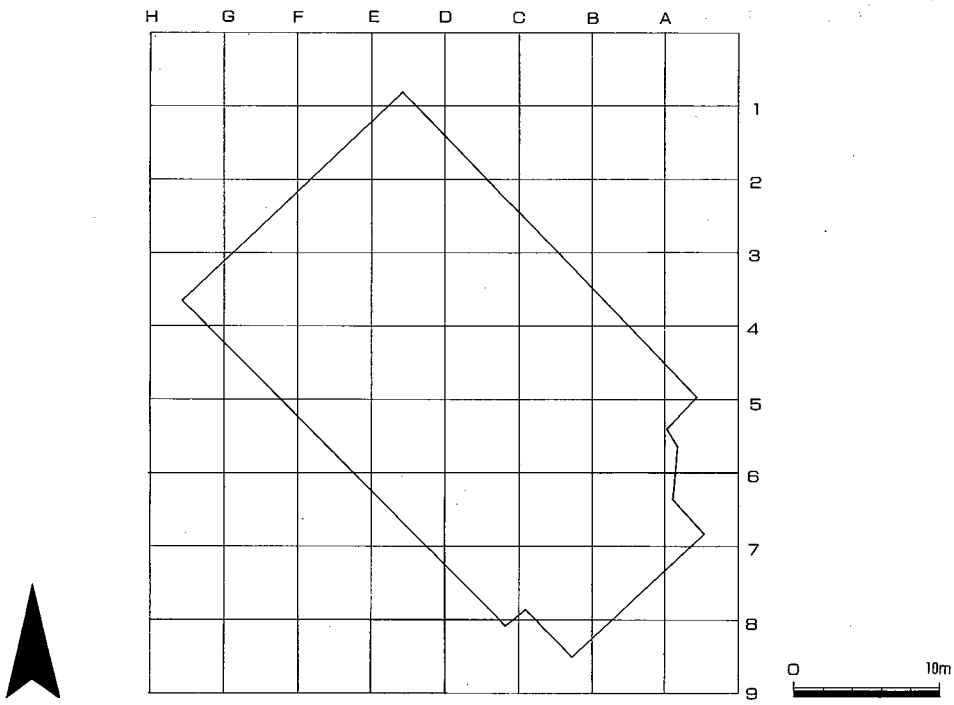


図4．調査区地区割図

鋤溝（図版２）

これらはＢ－７・８、Ｃ－４・７・８、Ｄ－４・６、Ｅ－５区で検出した鋤溝である。検出長0.7～0.8ｍ、幅0.2～0.8ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は暗灰黄色土である。方向は座標北に対して東へ65°振る。遺物は土師器、瓦器、須恵器が出土した。これらの鋤溝は調査区全域にひろがっていたと考えられる。

SX－1014（図版３）

本遺構はＣ－３・４、Ｄ－３・４、Ｅ－４・５、Ｆ－４～６、Ｇ－５区で検出した。検出長南東－北西4.4～5.8ｍ、南西－北東約19ｍ、深さ約0.18ｍを測る。埋土は灰オリーブ色粘質土、暗灰黄色土、灰黄色砂質土の順に堆積する。調査区全域で第４層は削平をうけており、調査区北側とくに深く掘削されたと考えられる。遺物は土師器、瓦器、須恵器、サヌカイト、瓦質土器、鉄製品が出土した。本遺構の時期は15世紀～16世紀にかけてと考えられる。

(2) 第２遺構面（図７）

第４層上面で検出を行った。遺構面は南から北へ0.23ｍ傾斜している。南西方向は西から東へ約0.04ｍ傾斜する。緩やかに南西から北東に下っている。第２遺構面では鋤溝、溝などを検出した。

鋤溝（図版４・５）

これらはＢ－７・８、Ｃ－４・７・８、Ｄ－３～５・８、Ｅ－４・５、Ｆ－４・５、Ｇ－５区で検出した鋤溝である。検出長0.8～3.5ｍ、幅約0.3ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は調査区北側が灰黄色土、調査区南側は灰オリーブ色土である。方向は座標北に対して東へ60～70°振る。遺物は土師器、瓦器、須恵器が出土した。

小土坑

これらはＢ・Ｃ－７、Ｃ－８・９区で検出した小土坑である。直径約0.1ｍを測る。埋土は灰色

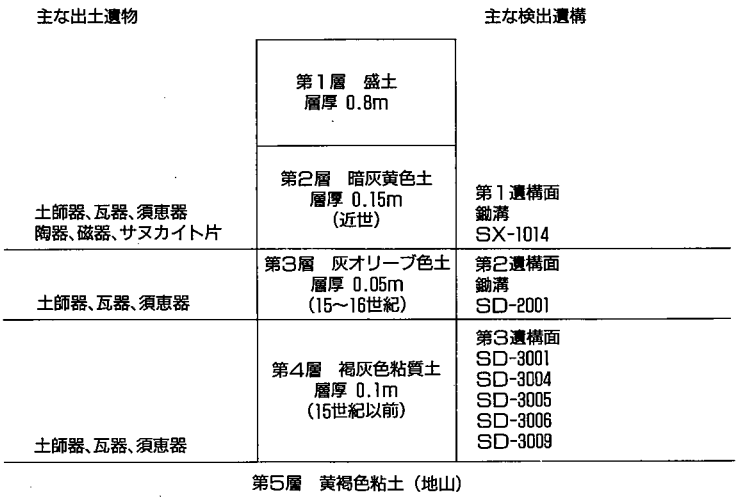


図5．基本層序図

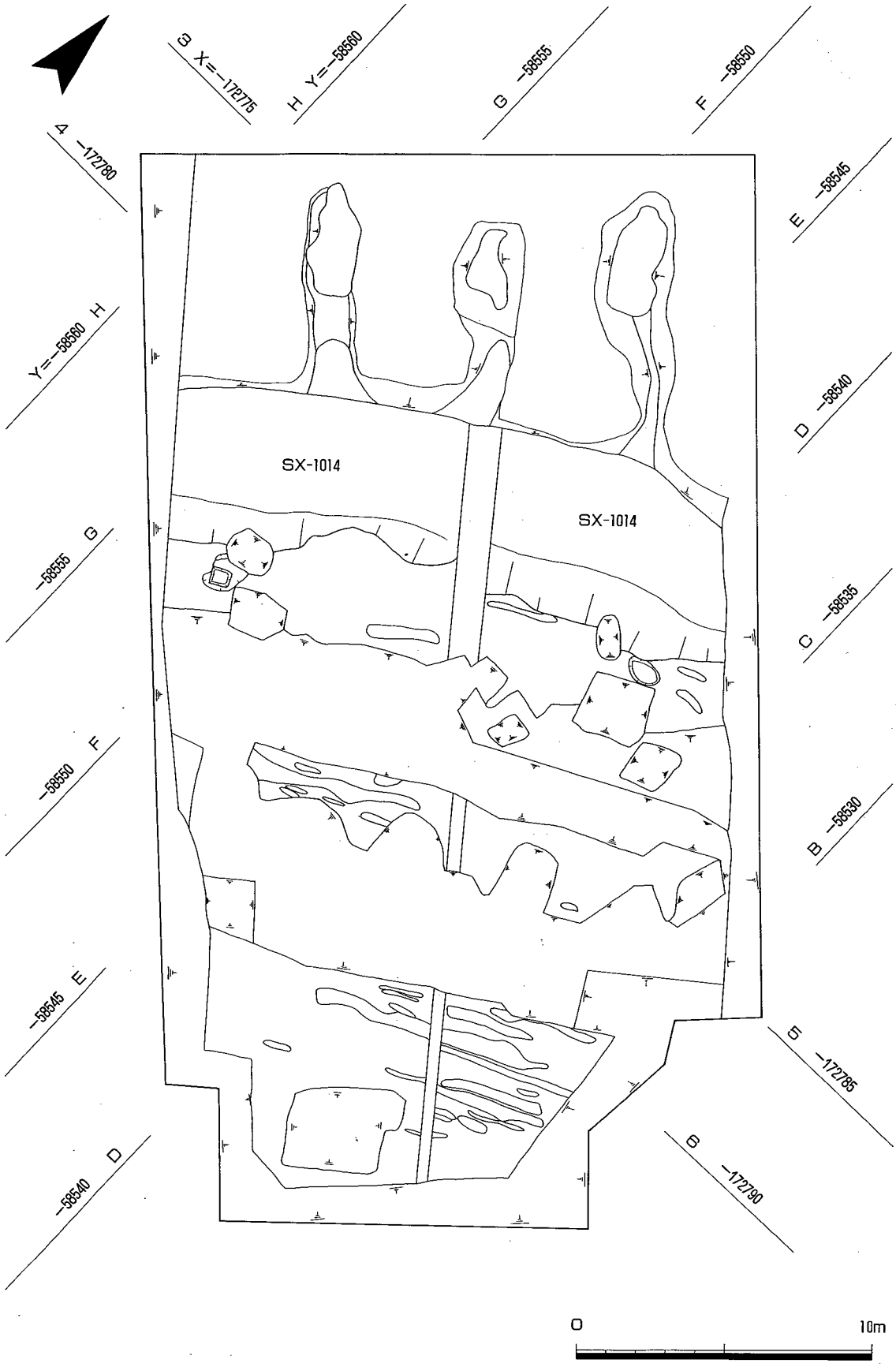


図6．第1遺構面遺構配置図

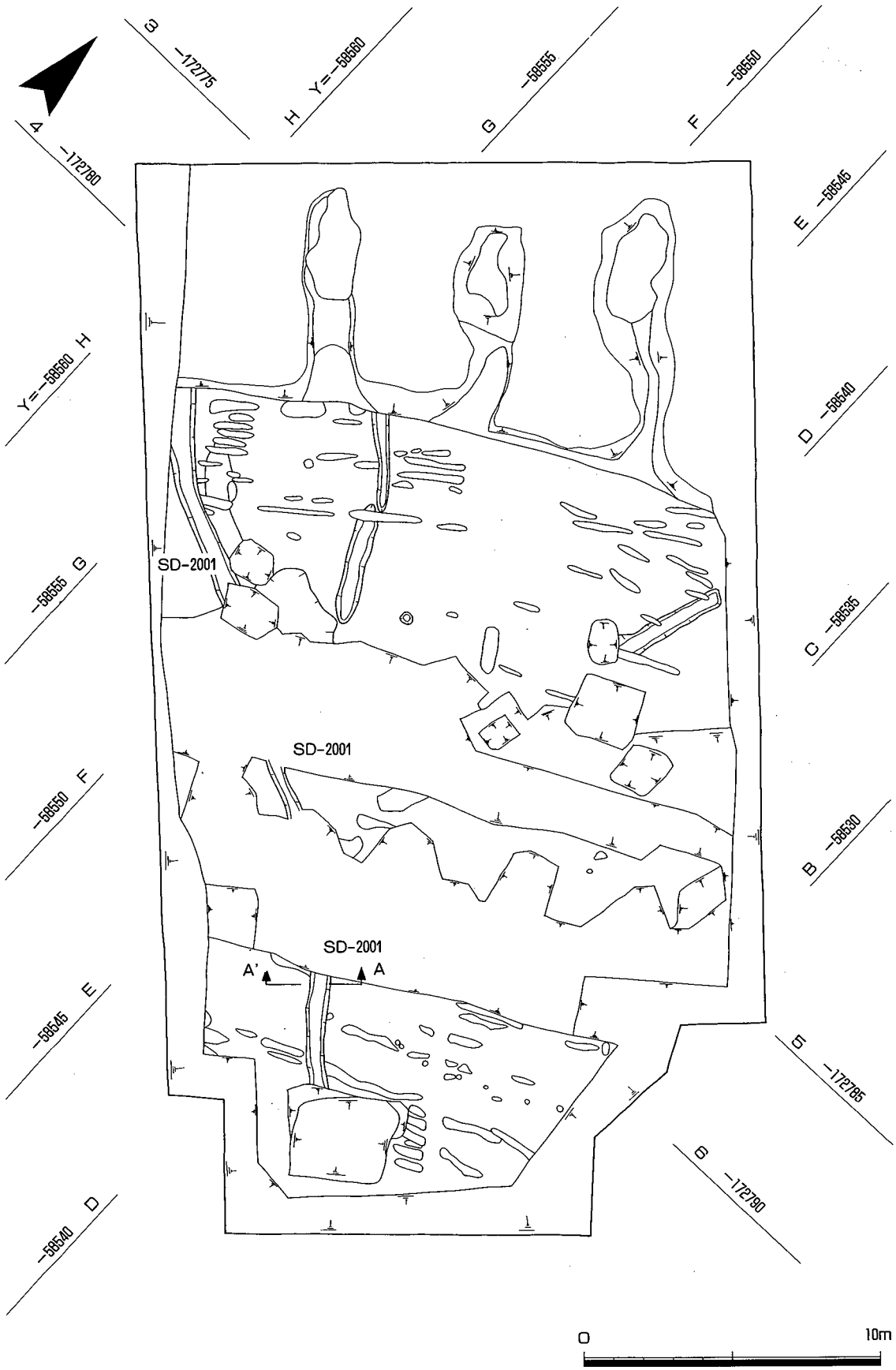


図７．第２遺構面遺構配置図

砂質土である。これら小土坑は同一方向で鋤溝に沿って並んでいる。耕作地に伴う杭（柵）列跡と考えられる。遺物は出土していない。

ＳＤ－2001（図８、図版６・７）

本遺構はＣ－７・８、Ｄ－７、Ｅ－７、Ｆ－６、Ｇ－５区で検出長12.8ｍ（攪乱部分も含む）、幅0.4～0.8ｍ、深さ約0.2ｍを測る。断面形状は逆台形を呈す。溝底部は比較的平坦である。埋土は褐灰色粘質土である。方向は座標北に対してC－７・８・９区は西へ45°、Ｄ－７区は西へ65°、Ｆ－６区は西へ65°、Ｇ－６区は西へ60°振り、蛇行しながら北西方向にのびていく。溝底部比高は南から北へ0.15ｍ下がっており、水は南東から北西へ流れていたと考えられる。溝の深さは北西側（Ｆ－６区）で浅くなることから、土地の削平をうけていたと考えられる。溝は埋土の状況から滞水状態の後埋没したと考えられる。本遺構はＳＤ－3004と重複している。この重複関係より本遺構はＳＤ－3004より新しい。遺物はＣ－８区で土師器高坏（図11・図版18－９）、Ｅ－７区で須恵器（図11・図版18－８）が出土した。時期は第３層の出土遺物より15世紀頃と考えられる。性格は農業用水路と考えられる。

(3) 第３遺構面（図９）

第５層上面で検出を行った。遺構面は南から北へ0.18ｍ傾斜する。本遺構面で溝を４条検出した。

ＳＤ－3006

本遺構はＢ－７、Ｃ－７、Ｄ－８区で検出した溝である。検出長約11ｍ、幅0.4ｍ、深さ0.05ｍを測る。埋土は灰黄色土である。方向は座標北に対して東へ25°振る。遺物は出土していない。

ＳＤ－3004（図版９）

本遺構はＥ－５～７区で検出した溝である。検出長約10ｍ（攪乱部分も含む）、幅0.6～0.7ｍ、深さ0.2ｍを測る。断面形状は逆台形を呈す。埋土は黄灰色砂質土である。遺物は土師器、瓦器が出土した。方向は座標北に対して東に25°振る。溝底部の比高は南から北へ0.18ｍを測り、水は南から北へ流れていたと考えられる。断面観察より埋土は砂と土が交互に堆積する。溝が埋没するまでに少なくとも１回は土が堆積するような時間が経過していたと考えられる。

ＳＤ－3005（図８、図版10、11）

本遺構はＣ－４、Ｄ－４～６区で検出した溝である。検出長約10ｍ（攪乱部分も含む）、幅0.7～0.8ｍ、深さ約0.15ｍを測る。断面形状は皿形を呈す。埋土は灰黄色砂、黄灰色砂である。方向は座標北に対して西に30°振る。溝底部の比高は南から北へ0.1ｍを測る。遺物は出土していない。本遺構はＳＤ－2001とは異なり、北へほぼ直線的にのびる。

断面観察では、溝の中央部分に小礫土が中州状に堆積し、やがてその両側部分に粗砂が堆積する。西側から粗砂の堆積が始まり、次第に流れは東側に移るようである。

Ｃ－４区ではＳＸ－1014の影響でＤ－４～６区よりもはやい段階で検出した。

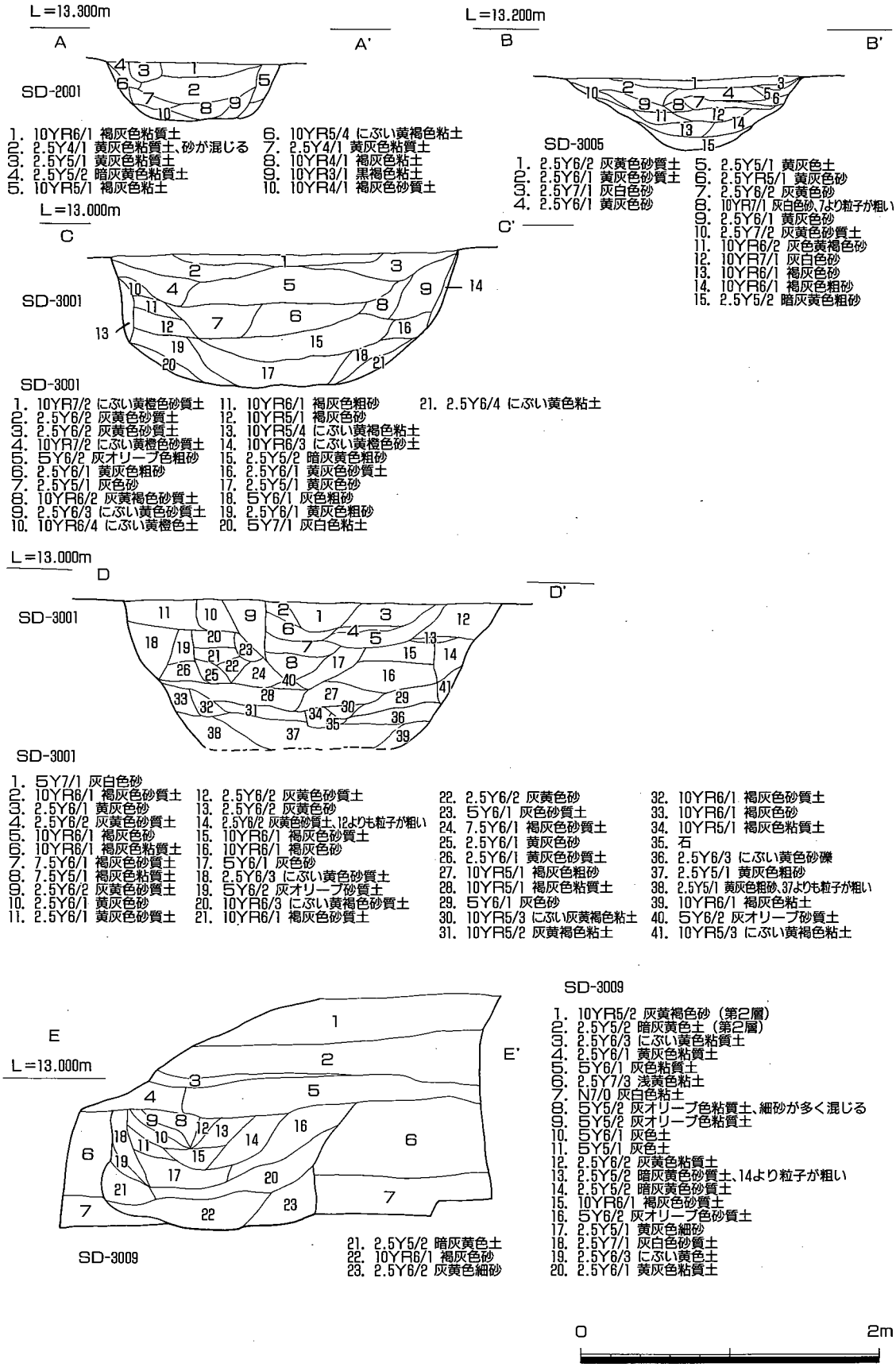

L=13.300m
A
A'
SD-2001
1. 10YR6/1 褐灰色粘質土
2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土、砂が混じる
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
5. 10YR5/1 褐灰色粘土
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土
7. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
8. 10YR4/1 褐灰色粘土
9. 10YR3/1 黒褐色粘土
10. 10YR4/1 褐灰色砂質土
L=13.200m
B
B'
SD-3005
1. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
2. 2.5Y6/1 黄灰色砂質土
3. 2.5Y7/1 灰白色砂
4. 2.5Y6/1 黄灰色砂
5. 2.5Y5/1 黄灰色土
6. 2.5YR5/1 黄灰色砂
7. 2.5Y6/2 灰黄色砂
8. 10YR7/1 灰白色砂、7より粒子が粗い
9. 2.5Y6/1 黄灰色砂
10. 2.5Y7/2 灰黄色砂質土
11. 10YR6/2 灰色黄褐色砂
12. 10YR7/1 灰白色砂
13. 10YR6/1 褐灰色砂
14. 10YR6/1 褐灰色粗砂
15. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
L=13.000m
C
C'
SD-3001
1. 10YR7/2 にぶい黄橙色砂質土
2. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
3. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
4. 10YR7/2 にぶい黄橙色砂質土
5. 5Y6/2 灰オリーブ色粗砂
6. 2.5Y6/1 黄灰色粗砂
7. 2.5Y5/1 灰色砂
8. 10YR6/2 灰黄褐色砂質土
9. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
10. 10YR6/4 にぶい黄橙色土
11. 10YR6/1 褐灰色粗砂
12. 10YR5/1 褐灰色砂
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土
14. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂土
15. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
16. 2.5Y6/1 黄灰色砂質土
17. 2.5Y5/1 黄灰色砂
18. 5Y6/1 灰色粗砂
19. 2.5Y6/1 黄灰色粗砂
20. 5Y7/1 灰白色粘土
21. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土
L=13.000m
D
D'
SD-3001
1. 5Y7/1 灰白色砂
2. 10YR6/1 褐灰色砂質土
3. 2.5Y6/1 黄灰色砂
4. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
5. 10YR6/1 褐灰色砂
6. 10YR6/1 褐灰色粘質土
7. 7.5Y6/1 褐灰色砂質土
8. 7.5Y5/1 褐灰色粘質土
9. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
10. 2.5Y6/1 黄灰色砂
11. 2.5Y6/1 黄灰色砂質土
12. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
13. 2.5Y6/2 灰黄色砂
14. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土、12よりも粒子が粗い
15. 10YR6/1 褐灰色砂質土
16. 10YR6/1 褐灰色砂
17. 5Y6/1 灰色砂
18. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
19. 5Y6/2 灰オリーブ砂質土
20. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土
21. 10YR6/1 褐灰色砂質土
22. 2.5Y6/2 灰黄色砂
23. 5Y6/1 灰色砂質土
24. 7.5Y6/1 褐灰色砂質土
25. 2.5Y6/1 黄灰色砂
26. 2.5Y6/1 黄灰色砂質土
27. 10YR5/1 褐灰色粗砂
28. 10YR5/1 褐灰色粘質土
29. 5Y6/1 灰色砂
30. 10YR5/3 にぶい灰黄褐色粘土
31. 10YR5/2 灰黄褐色粘土
32. 10YR6/1 褐灰色砂質土
33. 10YR6/1 褐灰色砂
34. 10YR5/1 褐灰色粘質土
35. 石
36. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂礫
37. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂
38. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂、37よりも粒子が粗い
39. 10YR6/1 褐灰色粘土
40. 5Y6/2 灰オリーブ砂質土
41. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土
E
E'
L=13.000m
SD-3009
1. 10YR5/2 灰黄褐色砂（第2層）
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色土（第2層）
3. 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土
4. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土
5. 5Y6/1 灰色粘質土
6. 2.5Y7/3 浅黄色粘土
7. N7/0 灰白色粘土
8. 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土、細砂が多く混じる
9. 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土
10. 5Y6/1 灰色土
11. 5Y5/1 灰色土
12. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土
13. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土、14より粒子が粗い
14. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土
15. 10YR6/1 褐灰色砂質土
16. 5Y6/2 灰オリーブ色砂質土
17. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
18. 2.5Y7/1 灰白色砂質土
19. 2.5Y6/3 にぶい黄色土
20. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土
21. 2.5Y5/2 暗灰黄色土
22. 10YR6/1 褐灰色砂
23. 2.5Y6/2 灰黄色細砂
SD-3009
0
2m

図8．遺構断面図

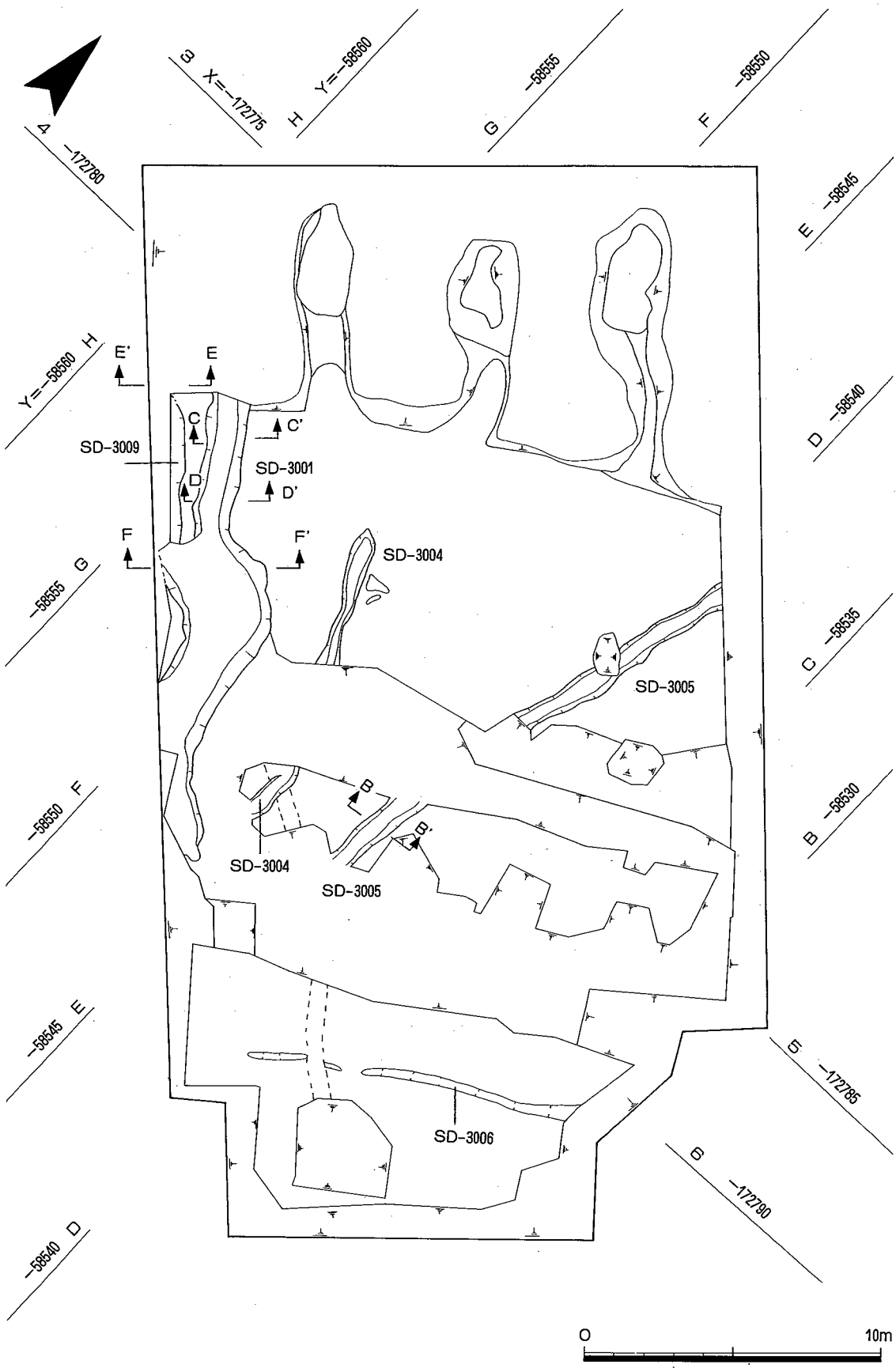


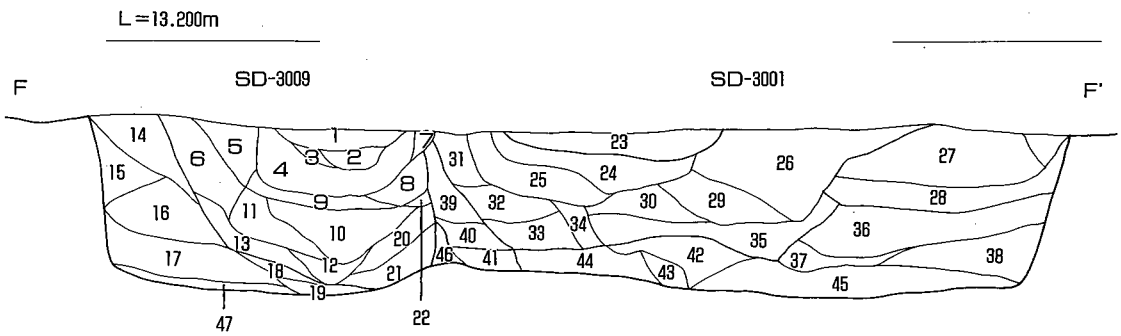
図９．第３遺構面遺構配置図

ＳＤ－3001（図10、図版12～16）

本遺構はＥ－６・７、Ｆ－５・６、Ｇ－５区で検出した溝である。検出長約15.5ｍ、幅1.5～3.0ｍ、深さ約0.5ｍを測る。埋土は上から褐灰色粘質土、褐灰色砂質土、黄灰色粗砂の順に堆積する。断面形状は逆台形を呈す。方向は座標北に対して西に45°振る。蛇行しながら北西方向にのびていく。底部比高は南東から北西方向に0.1ｍを測る。溝底部は若干起伏する。底部は第６層まで掘り下げており、礫の頭が露出する。遺物は土師器が１点出土したが、攪乱土が混じっている可能性がある。流木などの有機物は確認できなかった。本遺構は調査区西壁の断面観察で第５層上面から掘り込まれているが、第５層は削平をうけている可能性がある。水の流れは次第に弱まり、溝底部に粗砂が堆積する。その後滞水状態となり、粘土が堆積する。溝の上層は砂層であることから再び水が流れ始めたと推測される。ＳＤ－3001埋没後、新たに溝ＳＤ－3009がつくられる。

ＳＤ－3009（図10、図版16）

本遺構はＥ－６・７、Ｆ－６、Ｇ－５区で検出した溝である。検出長約15.5ｍ、幅0.7ｍ、深さ約0.4ｍを測る。埋土は上層が褐灰色土もしくは粘質土、下層が褐灰色砂土である。断面形状はU字形である。調査区西端のため平面形状は不明であるが、ＳＤ－3009はほぼ埋没したＳＤ－3001に沿うようにつくられていたものと考えられる。出土遺物はＳＤ－3001同様確認できなかった。本遺構はＳＤ－3001と同じ目的に利用されたものと考えられる。



1. 5Y7/1 灰白色砂、黄色小礫が混じる
2. 5Y6/1 灰色細砂、若干マンガンが混じる
3. 5Y7/1 灰白色細砂、2に比べ粒子が粗い
4. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土
5. 2.5Y5/2 暗灰黄色土、小礫が多く混じる
6. 2.5Y5/3 黄褐色土、黄色小礫が混じる
7. 2.5Y6/2 灰黄色細砂
8. 10YR6/1 褐灰色砂
9. 7.5Y6/1 褐灰色土、砂が混じる
10. 10YR4/1 褐灰色土
11. 10YR4/1 褐灰色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
12. 7.5Y4/1 褐灰色粘質土
13. 7.5Y6/1 褐灰色砂質土
14. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
15. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
16. 2.5Y5/3 黄褐色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
17. 2.5Y5/1 黄灰色砂、黄色小礫が混じる
18. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂、黄色小礫が混じる
19. 2.5Y4/1 黄灰色粗砂、小礫が多く混じる
20. 7.5Y5/1 灰色土、小礫が多く混じる
21. 5Y7/1 灰白色砂質土
22. 10YR5/1 褐灰色砂質土、黄色小礫が混じる
23. 10YR4/1 褐灰色粘質土(SD-2001)
24. 2.5Y5/1 黄灰色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
25. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
26. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
27. 10YR5/1 褐灰色砂質土、砂・黄色小礫が多く混じる
28. 7.5Y6/1 褐灰色砂質土
29. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土、黄色小礫が多く混じる
30. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土、小礫が多く混じる
31. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
32. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土、小礫・黄色小礫が多く混じる
33. 7.5Y5/1 褐灰色砂質土
34. 10YR6/1 褐灰色砂質土、小礫が多く混じる
35. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
36. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
37. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土
38. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
39. 10YR6/2 灰黄褐色砂質土、黄色小礫・小礫が多く混じる
40. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土、黄色小礫が多く混じる
41. 10YR5/1 褐灰色粗砂、黄色粘土ブロックが混じる
42. 2.5Y6/2 灰黄色微砂
43. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂
44. 10YR5/1 褐灰色粗砂、29よりも粒子が粗い
45. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂
46. 10YR5/2 灰黄褐色砂
47. 5YR5/1 灰色粗砂

0　2m

図10. ＳＤ－3001・3009断面図

4．出土遺物

遺構出土遺物

1はＳＤ－1010出土の瓦器椀口縁部である。復元口径12.6㎝、器厚0.4㎝を測る。内弯しながら外上方へたちあがる。口縁部外面には強い横ナデを施す。

2・4・5・10・26・27はＳＸ－1014出土である。2は土師器小皿である。復元口径7.6㎝を測る。底部は平底である。口縁部は短く外上方に屈曲する。4・5は瓦質羽釜口縁部である。4は復元口径22.6㎝を測る。口縁部は内弯し、短くのびる。口縁外面は3条の幅広い浅い沈線により段を成す。内面はハケメを施す。鍔は水平にのびる。5は復元口径23.6㎝、器厚0.5㎝を測る。口縁部は内傾し、外面は3条の沈線により段を成す。口縁端部はやや丸い。鍔は短く水平にのび、端部は丸い。10は土師器高坏である。復元底部径13.6㎝、器厚0.4㎝を測る。26・27は青磁である。

8・9・30はＳＤ－2001出土である。8は須恵器坏身である。復元外径14.2㎝、器厚0.5㎝を測る。受部はやや外方にのび、端部は丸い。9は土師器高坏である。残存高6.0㎝を測る。摩滅が激しく調整は不明瞭である。30は須恵器坏身の受部である。

6・28・29は攪乱出土である。6は須恵器坏身である。復元口径12.4㎝、器厚0.4㎝を測る。たちあがりは内傾しながらのびる。受部はやや外方してのびる。端部は丸い。28は土師器甕口縁部である。29は陶磁器である。

第2層出土遺物

7・11は土師器である。7は小皿である。復元口径6.6㎝を測る。底部は平底である。口縁部は短く外上方に屈曲する。11は鉢である。復元口径25.8㎝、器厚0.5㎝を測る。口縁部は外方にのびる。

12は須恵器摺鉢である。復元口径25.6㎝、器厚0.7㎝を測る。口縁部は上下に短く拡張し、端部は丸い。

13～16は白磁である。13は高台部である。復元高台径6.8㎝、高台高0.4㎝、器厚0.3㎝を測る。14は復元口径11.2㎝、器厚0.4㎝を測る。15は復元口径12.4㎝を測る。口縁端部が外反する。16は玉縁口縁部である。復元口径16.4㎝を測る。外面にケズリが認められる。

17・18は磁器高台部である。17は復元高台径7.0㎝、高台高0.4㎝を測る。高台部には砂が付着する。18は復元高台径5.2㎝を測る。高台は削り出してある。内面は施釉、外面は回転カンナ削りである。

19は美濃・瀬戸系天目碗である復元口径10.0㎝、器厚0.5㎝を測る。口縁端部が外反する。

20は摺鉢口縁部である。復元口径28.2㎝、器厚0.8㎝を測る。口縁端部外面は横ナデである。口縁部は上下に拡張する。拡張部に2条、口縁端部に1条の沈線を施す。すり目は縦方向である。

21・22・31は瓦質土器である。21は羽釜である。復元口径25.4㎝、器厚1.0㎝を測る。口縁部外面は2条の強い横ナデにより段を成す。鍔は短く水平にのび、端部は方形である。内面はハケ

目の後ナデを施す。22・31は甕口縁部である。22の口縁端部は丸く折れ曲がる。復元口径30.2cmを測る。

35〜37は青磁である。

第3層出土遺物

3・32・34は瓦器である。3は小皿である。復元口径8.2cmを測る。やや内弯しながら外上方にのびる。32・34は椀である。

33は土師質甕口縁部である。

24・25は青磁である。24は復元口径15.8cm、器厚0.5cmを測る。外面に蓮華文を施す。口縁端部は丸い。25は復元口径17.2cm、器厚0.4cmを測る。

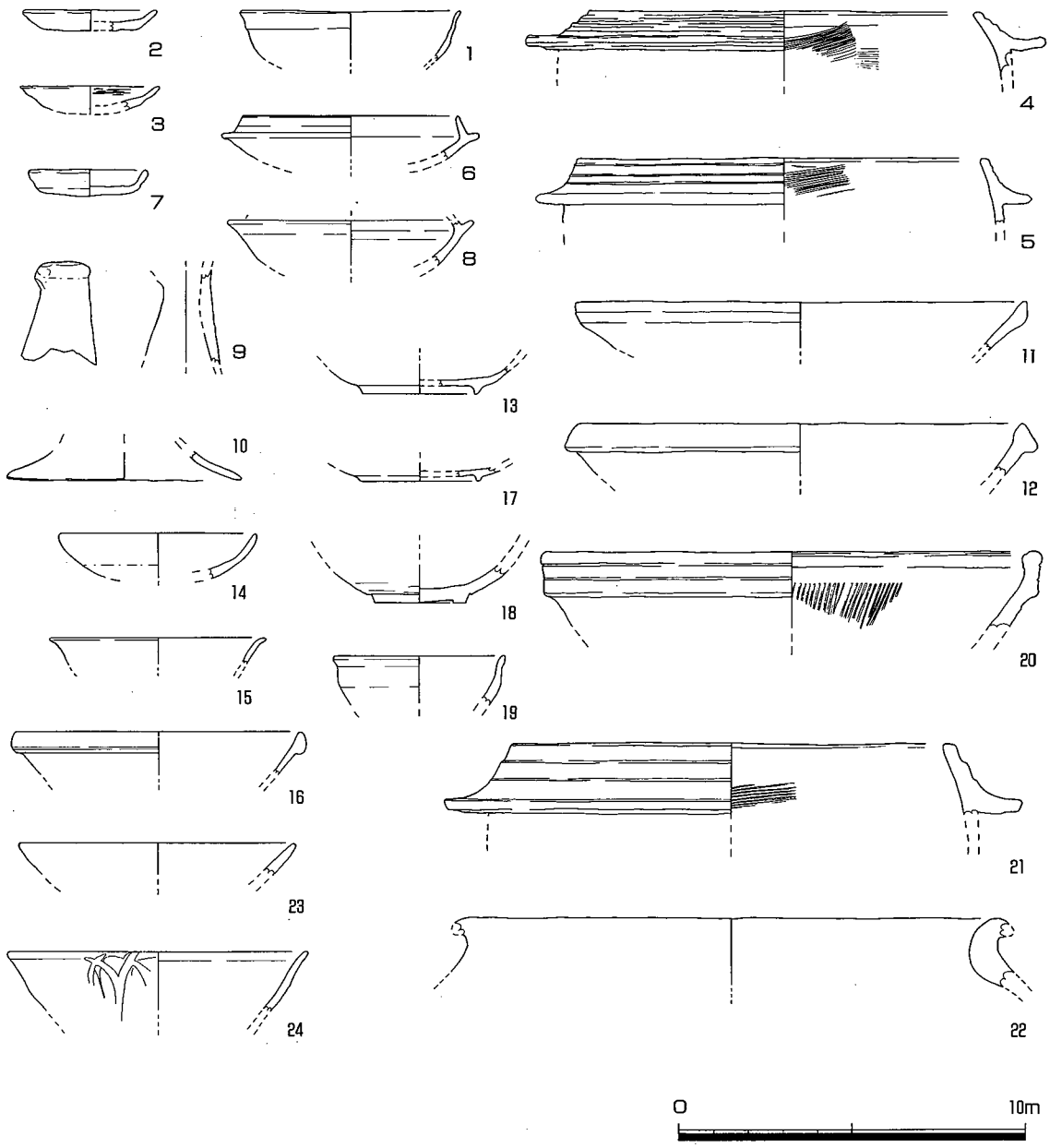


図11. 出 土 遺 物

第4章　ま　と　め

今回の調査では中世から近世の遺構を検出した。

中世以前の遺構は検出できなかった。おそらく中世において土地の削平が行われ、遺物包含層が失われたと考えられる。

奈良時代の遺構は平成8年度の調査区で検出した。段が存在し、その肩に対して平行に溝が通っていた。ＳＤ－6003の規模は幅0.3～2.6ｍ、深さ0.1～0.45ｍを測る。埋土は上から灰褐色シルト、灰色粗砂、黒褐色粘土、灰褐色粘質土、灰色粗砂が堆積する。奈良時代の須恵器坏蓋が出土したＳＸ－6004が切り込んでおり、ＳＤ－6003は奈良時代と推測している。

中世では本調査地よりＳＤ－3001・3009・3004・3005を検出した。ＳＤ－3001・3009とＳＤ－3004・3005とでは規模、方向が異なる。規模は後者に比べて前者の方が大きい。前者は調査区の南東から北西にのびる溝であり、後者は調査区の南から北にのびる溝である。土地の削平や重複関係や遺物の出土が明らかでないため、時期関係は不明確である。ＳＤ－3001の埋没後、ＳＤ－3007がほぼ同位置につくられる。ＳＤ－3001・3009から分流する溝と考えられる。それぞれの対応は不明である。ため池と結ばれたＳＤ－3001・3009からＳＤ－3004・3005を通して周囲の耕作地に水を供給していたと考えられる。堰などの施設は検出できなかった。

本調査地より南東に200ｍの位置で平成8年度に発掘調査を行っており、北西方向にのびる溝を検出した。ＳＤ－6002の規模は幅0.4～2.4ｍ、深さ0.11～0.22ｍを測る。埋土は上層に黄灰色シルト質土、下層に黄灰色粗砂が堆積する。中世の遺物が出土した。ＳＤ－6001の規模は幅0.4～0.7ｍ、深さ0.48～0.64ｍを測る。埋土は上層に灰黄褐色土、下層に黒褐色粗砂が堆積する。遺物は瓦器椀、白磁碗が出土した。これら検出した溝はいずれも調査区の南東から北西方向にのびている。

本調査地で検出したＳＤ－3001と平成8年度調査のＳＤ－6001は埋土堆積は異なるものの、規模、方向、断面形状が類似することから、同一の遺構ではないかと推測される。ＳＤ－6002は直接繋がる可能性は低いが、その性格は同じ農業用水路と考えられる。両調査区西側がこの周辺地区におけるため池からの供給ラインであったと推測される。

ＳＤ－3006は鋤溝と考えられる。調査区の中央から北側にかけて鋤溝が検出できなかったのは、削平をうけていたからであろう。第3遺構面も同様耕作地であったと考えられる。

その後、ＳＤ－2001がつくられる。規模はＳＤ－3001・3009に比較すると小さくなるが、方向性が類似することから、同じ性格のものであると考えられる。

ＳＸ－1014は土地開発時に第3・4層を削平したものと考えられる。ＳＸ－1014の堆積層は第2層と類似していることから近世に削平工事が行われていたと考えられる。耕作地に段もしくは傾斜をつけることによって水の巡りをよくするために工夫したものと推測される。

報告書抄録

ふりがな	うみづかいせきはっくつちょうさがいよう
書名	海塚遺跡発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番	第５０集
編著者名	木嶋崇晴
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	597-8585大阪府貝塚市畠中１丁目１７番１号TEL0724(23)2151
発行年月日	西暦１９９９年　３月　３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
うみつかいせき 海塚遺跡	おおさかふ 大阪府 かいづかし 貝塚市 うみづか 海塚	27208	110	34度 26分	135度 21分	1998年 7月21日～ 9月16日	760	医療施設

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
うみづかいせき 海塚遺跡	集落跡	中世	鋤溝 溝 大溝	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器	

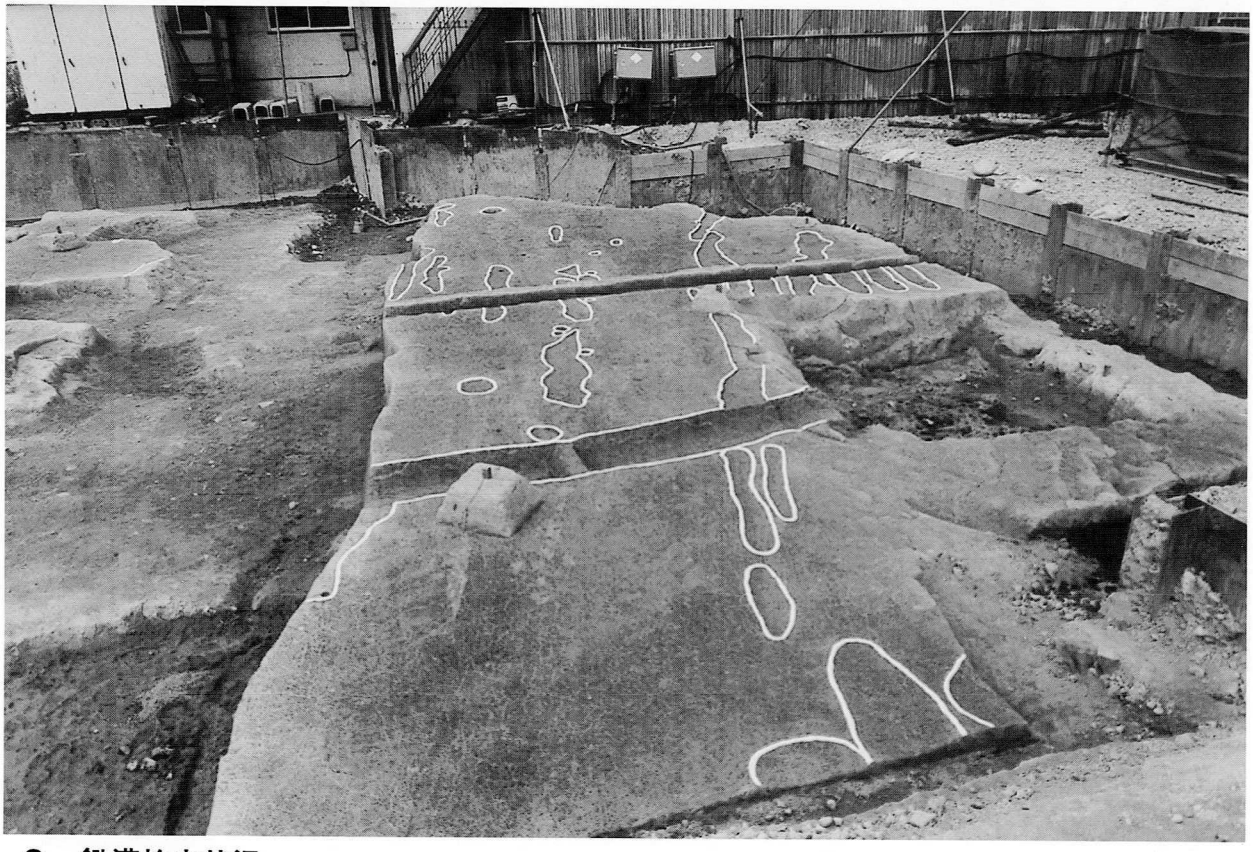
図　　版

図版1　検出遺構

調査区全景

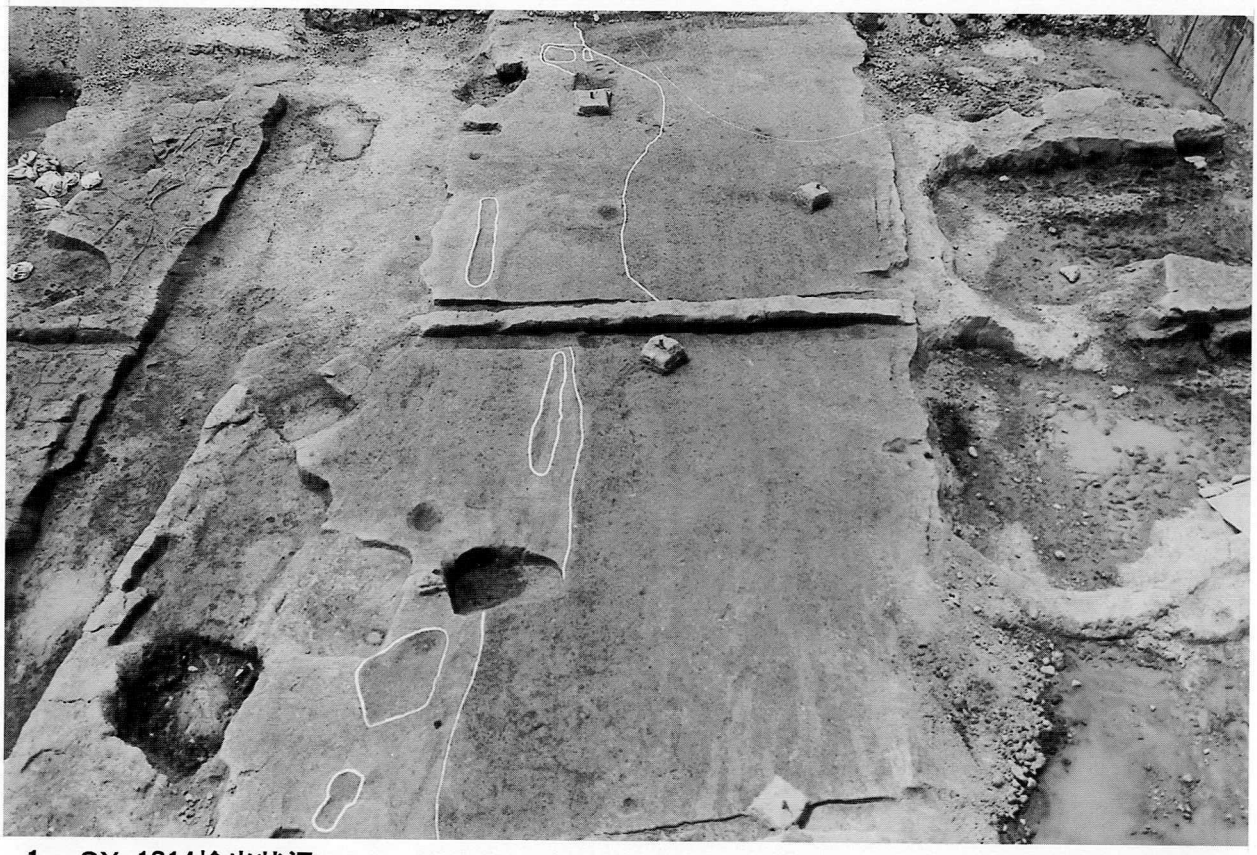
図版２　検出遺構

１．第１遺構面全景　　南より

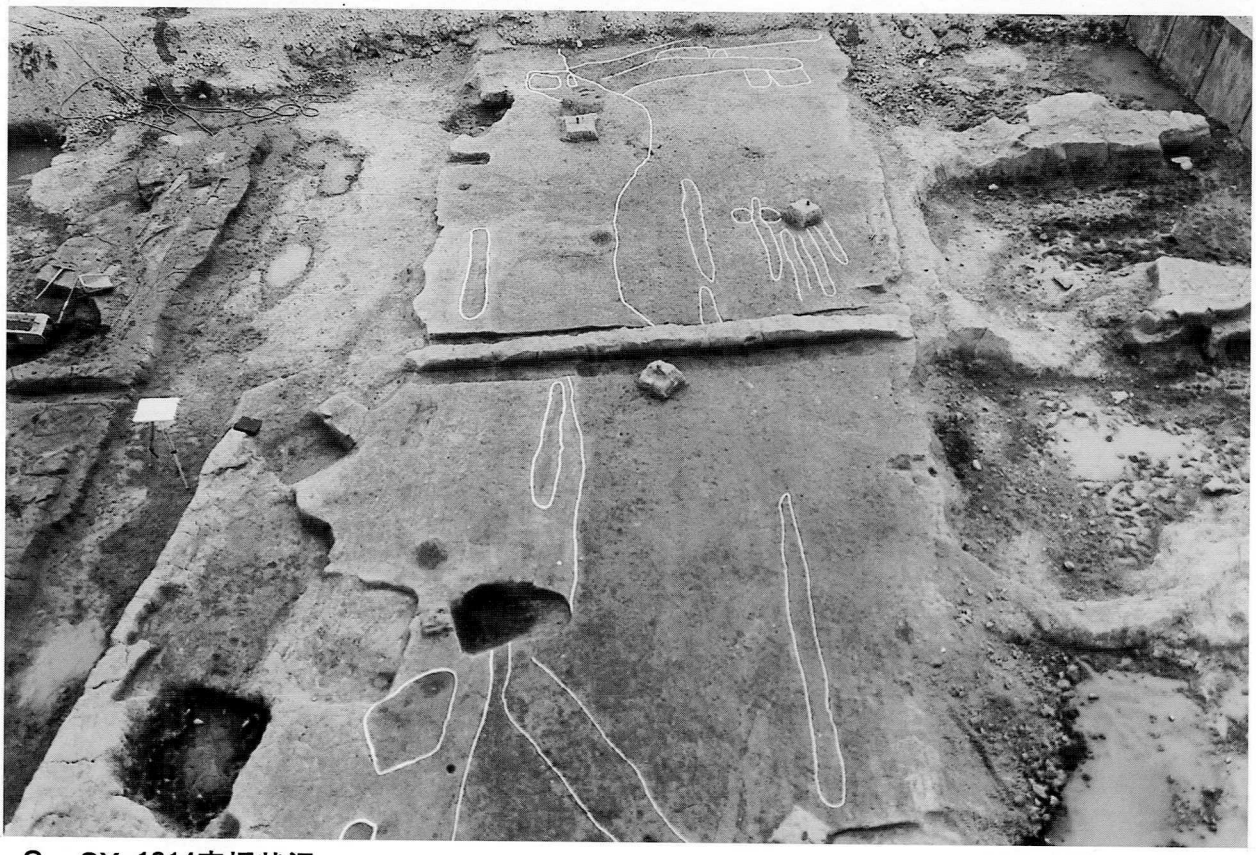


２．鋤溝検出状況　　南より

図版3　検出遺構



1．SX-1014検出状況　　東より



2．SX-1014完掘状況　　東より

図版４　検出遺構

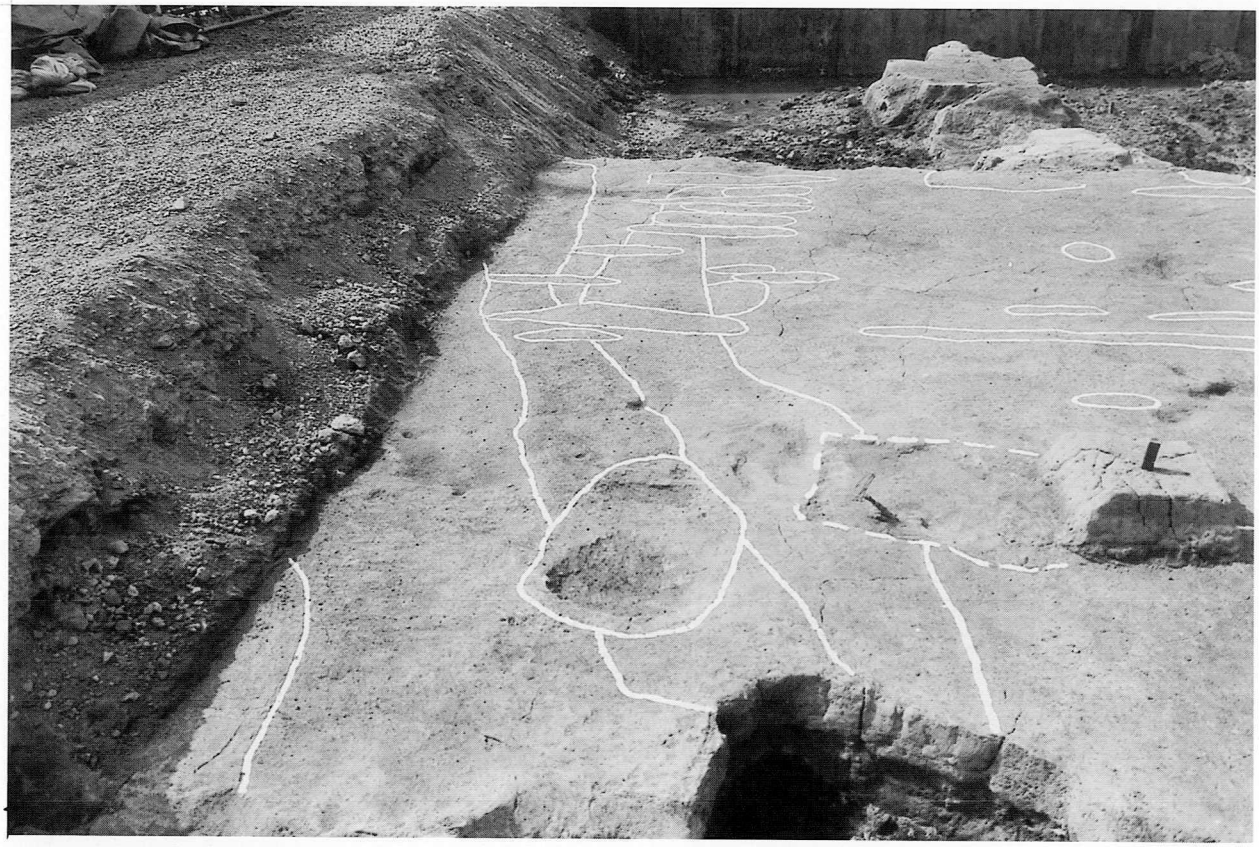
１．第２遺構面全景　　南より

２．第２遺構面南側完掘状況　　西より

1．第２遺構面北側検出状況　　東より

2．第２遺構面北側完掘状況　　東より

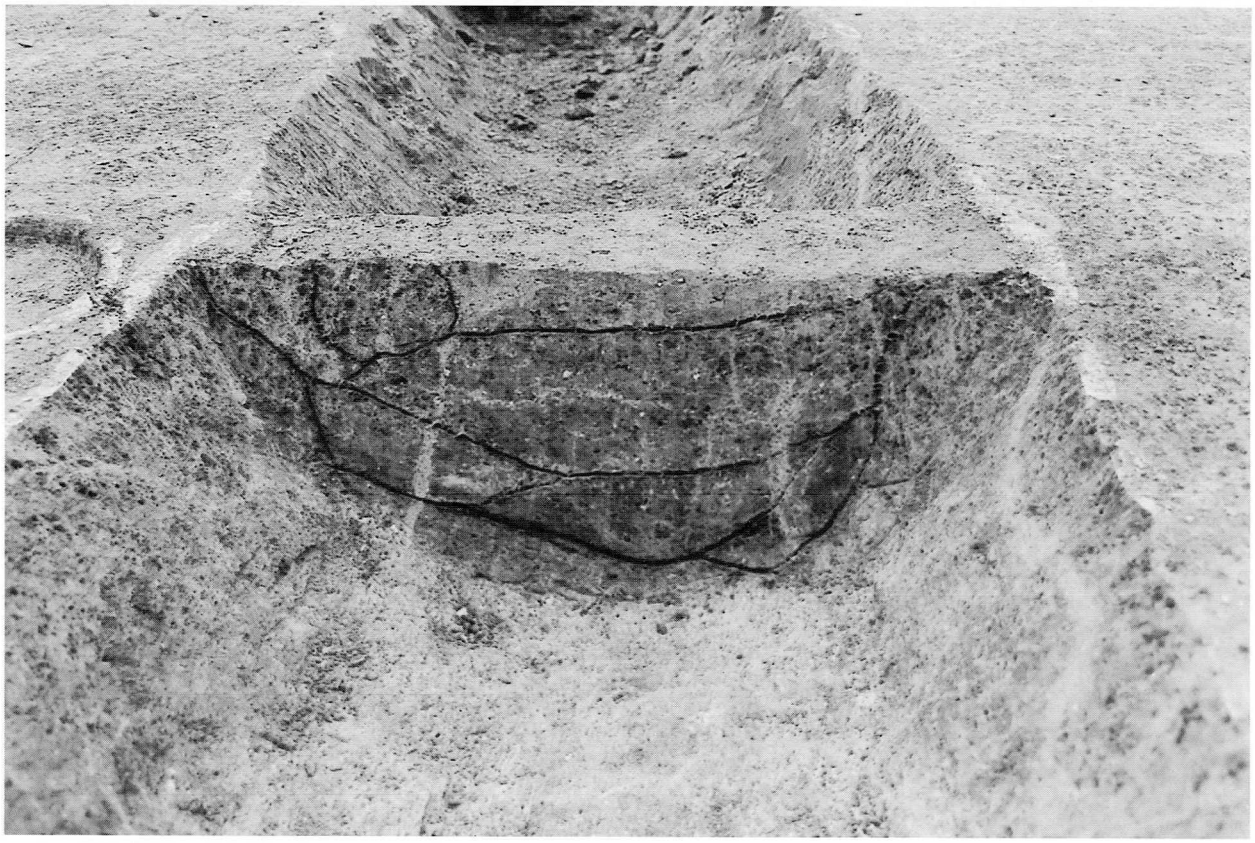
図版6　検出遺構



1．SD-2001検出状況　　南より

2．SD-2001完掘状況　　南より

1．SD-2001完掘状況　　南より



2．SD-2001土層断面（C-7区）　　南より

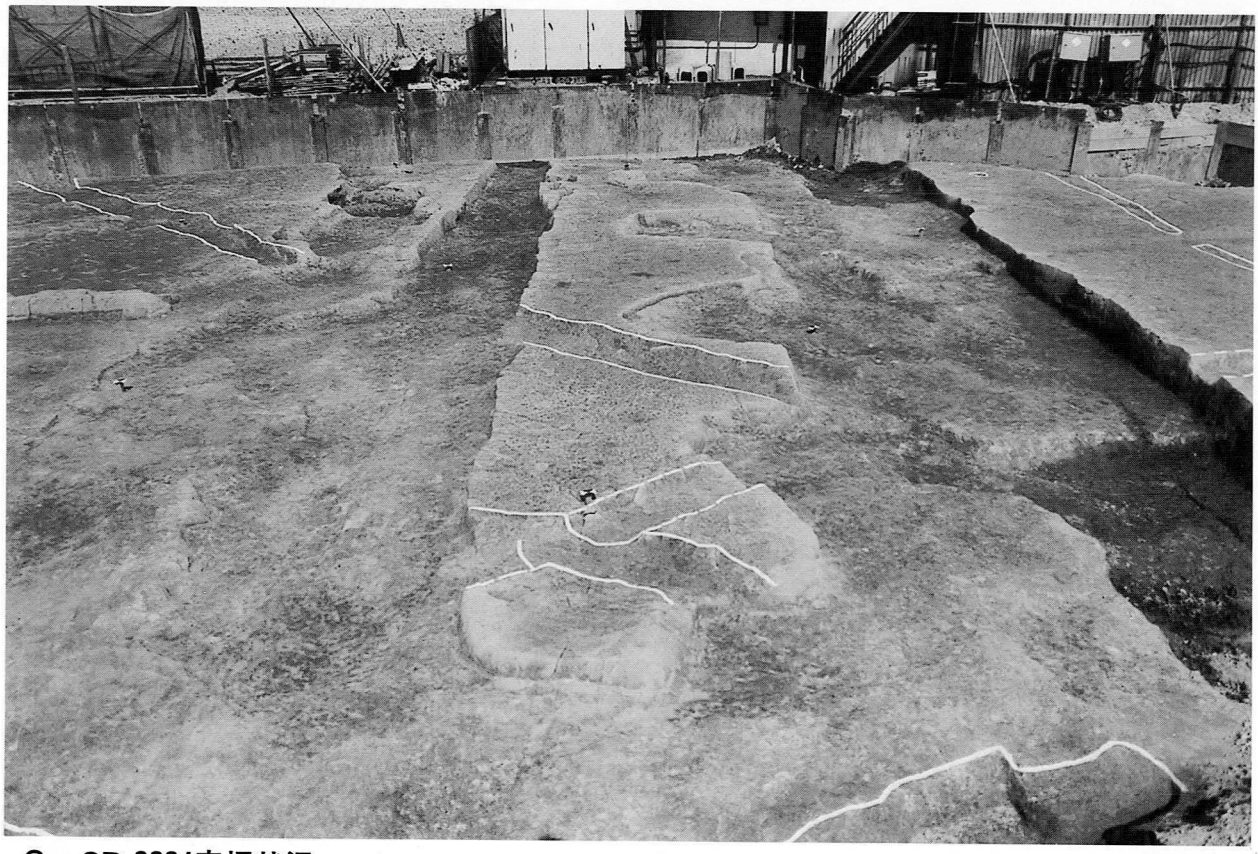
図版8　検出遺構

1．第３遺構面検出状況　　南より

2．第３遺構面完掘状況　　南より

図版9　検出遺構

1．SD-3004検出状況



2．SD-3004完掘状況　　西より

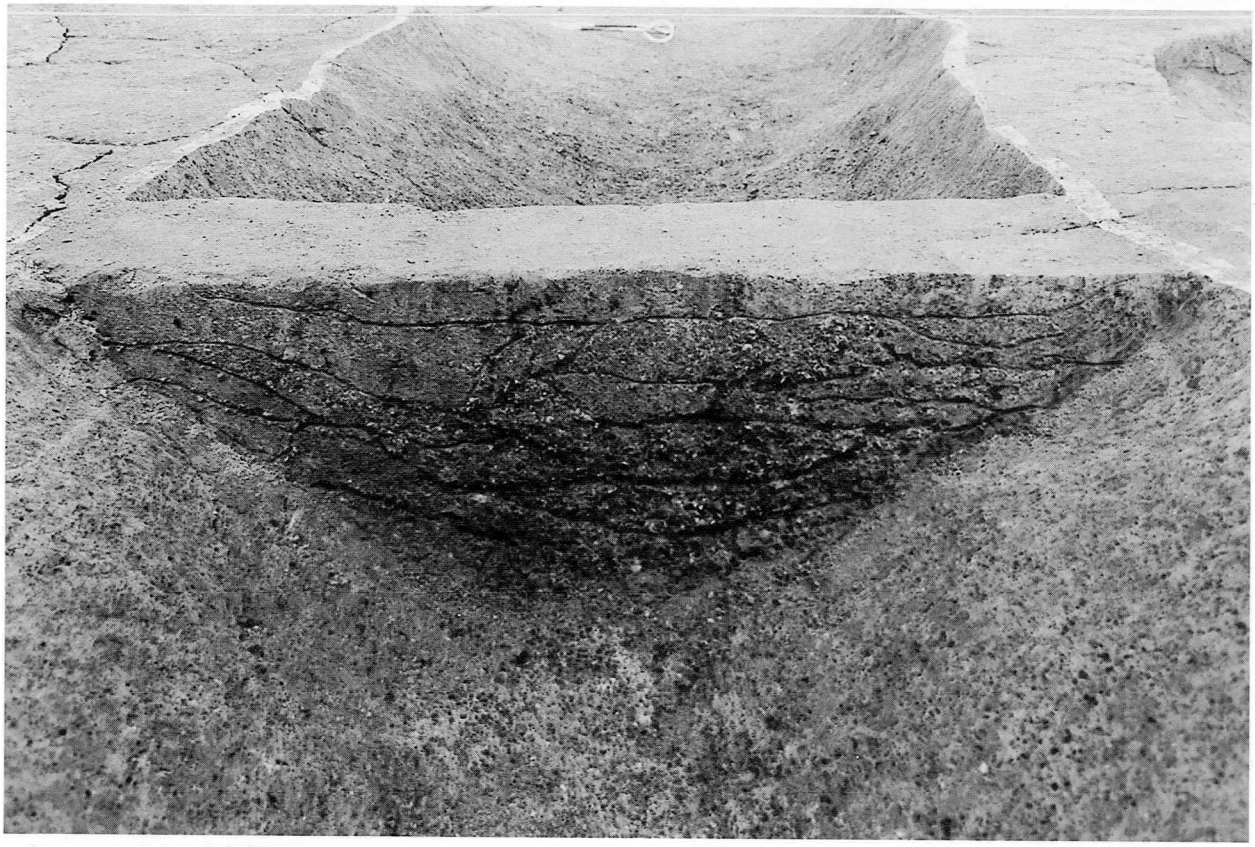
図版10　検出遺構

1．SD-3005検出状況　　南西より

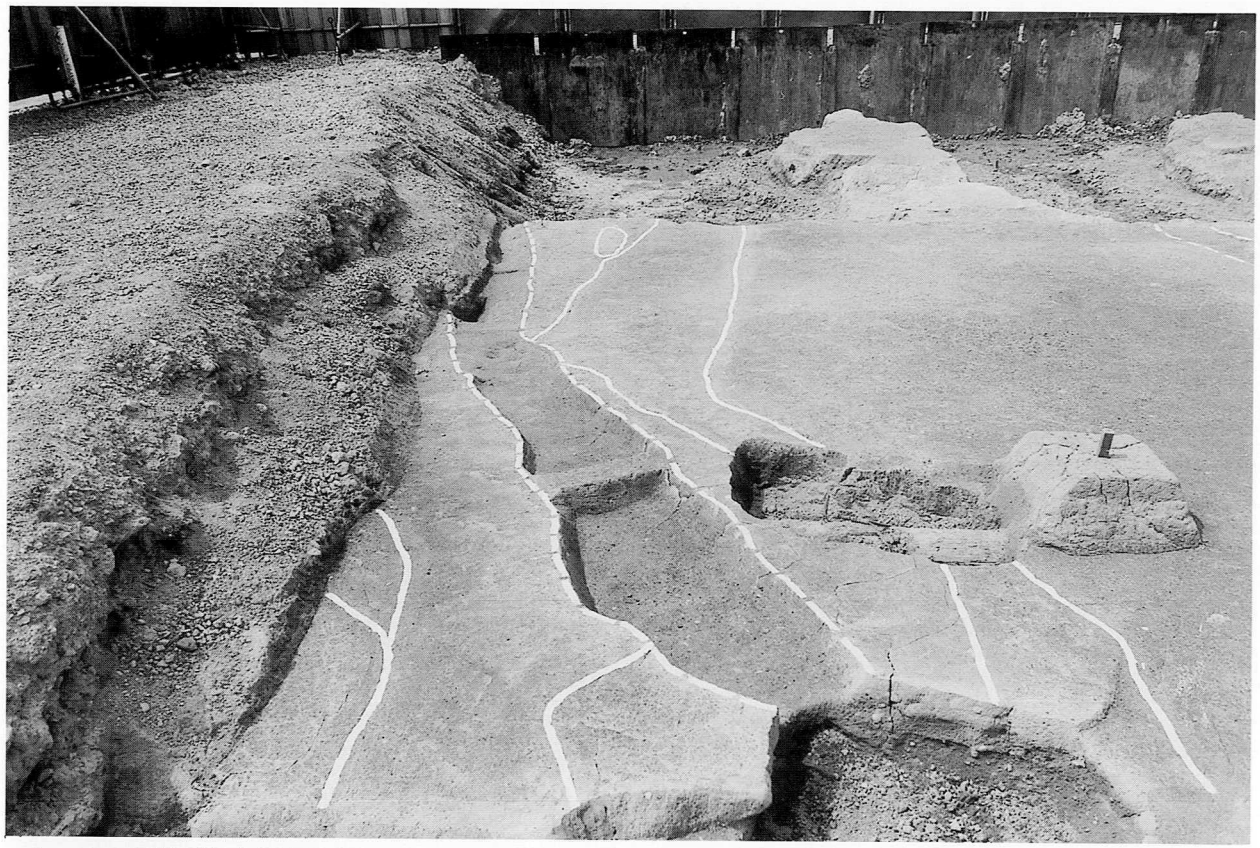
2．SD-3005完掘状況　　南西より

図版11　検出遺構

1．SD-3005　　東より



2．SD-3005土層断面　　南西より



1．SD-3001検出状況　　南より

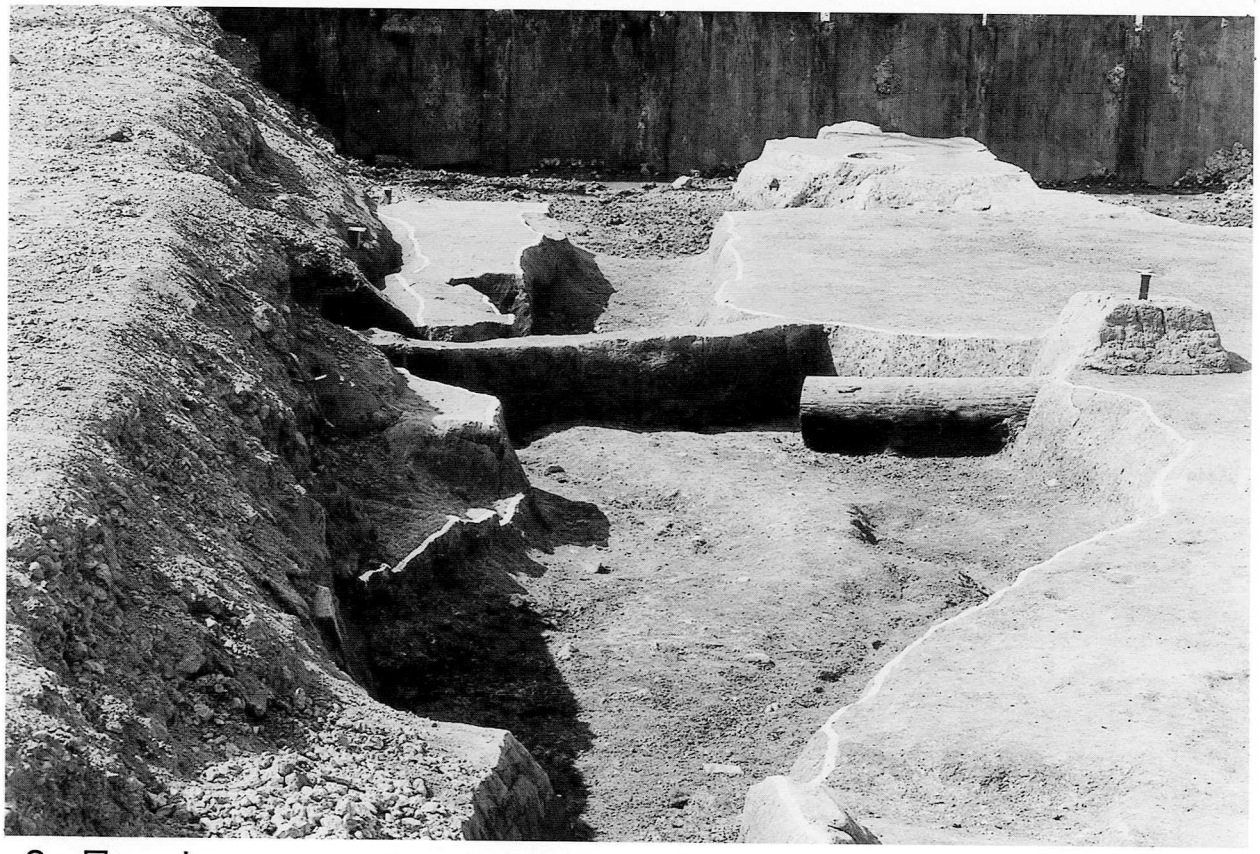
2．SD-3001完掘状況　　南より

1．SD-3001検出状況　　北西より

2．SD-3001完掘状況　　北西より

図版14　検出遺構

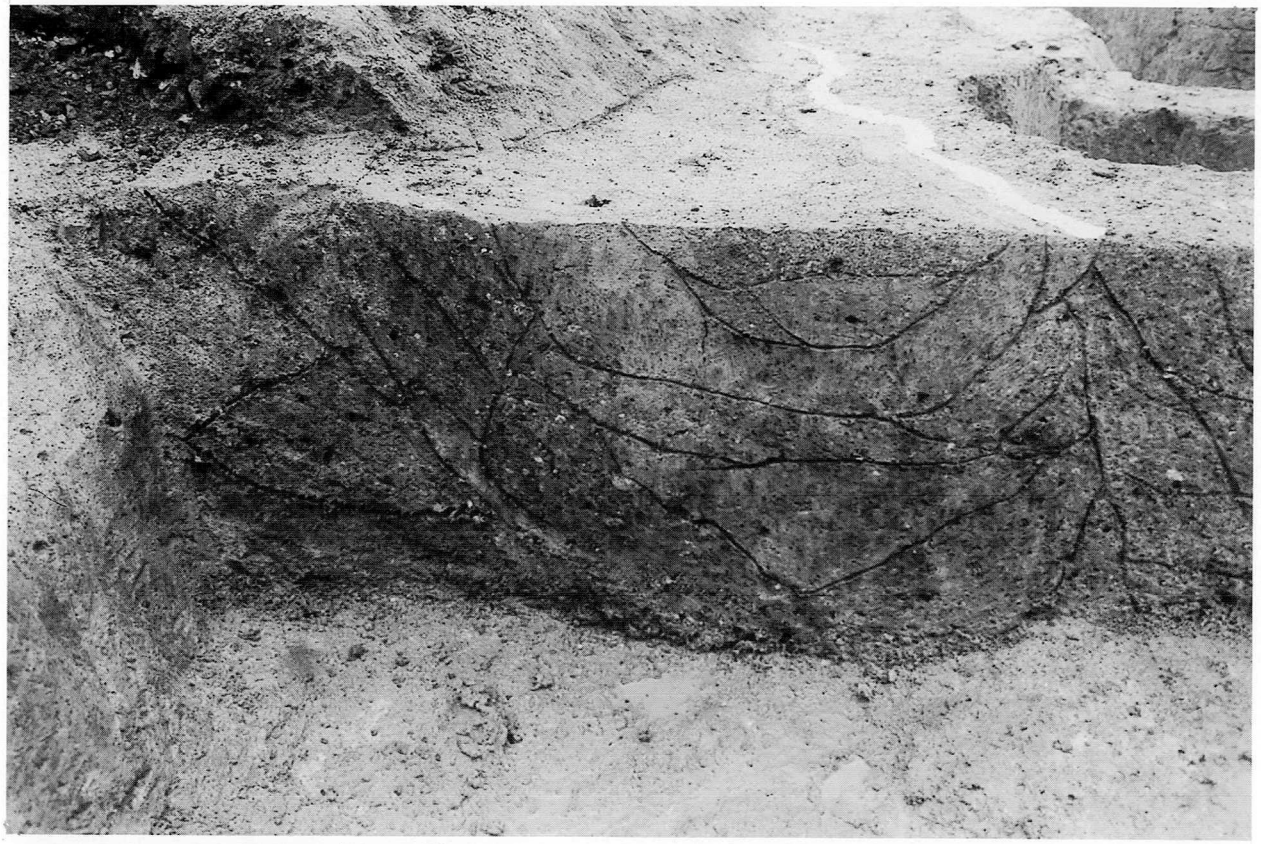
1．SD-3001完掘状況　　南東より



2．同　　上　　南より

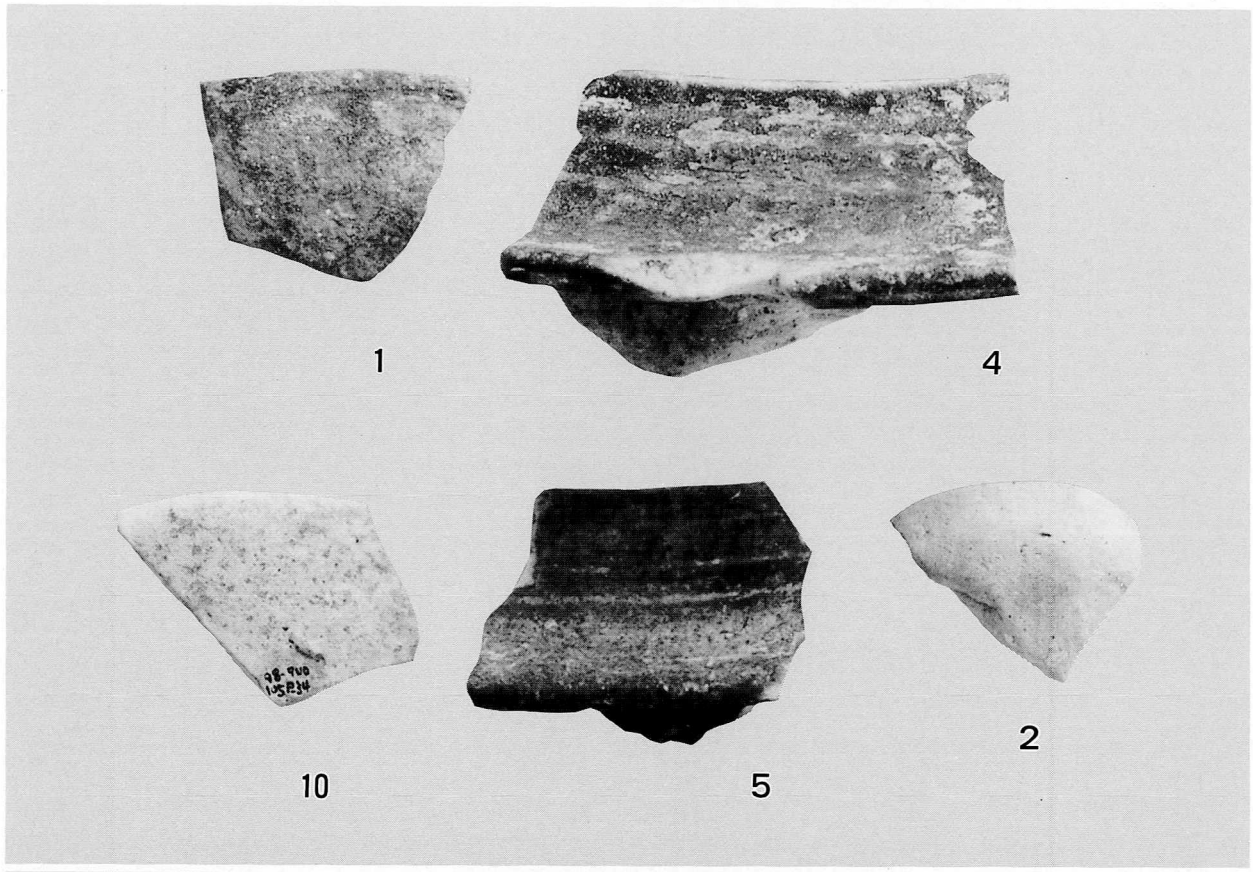
1．SD-3001完掘状況　　北より

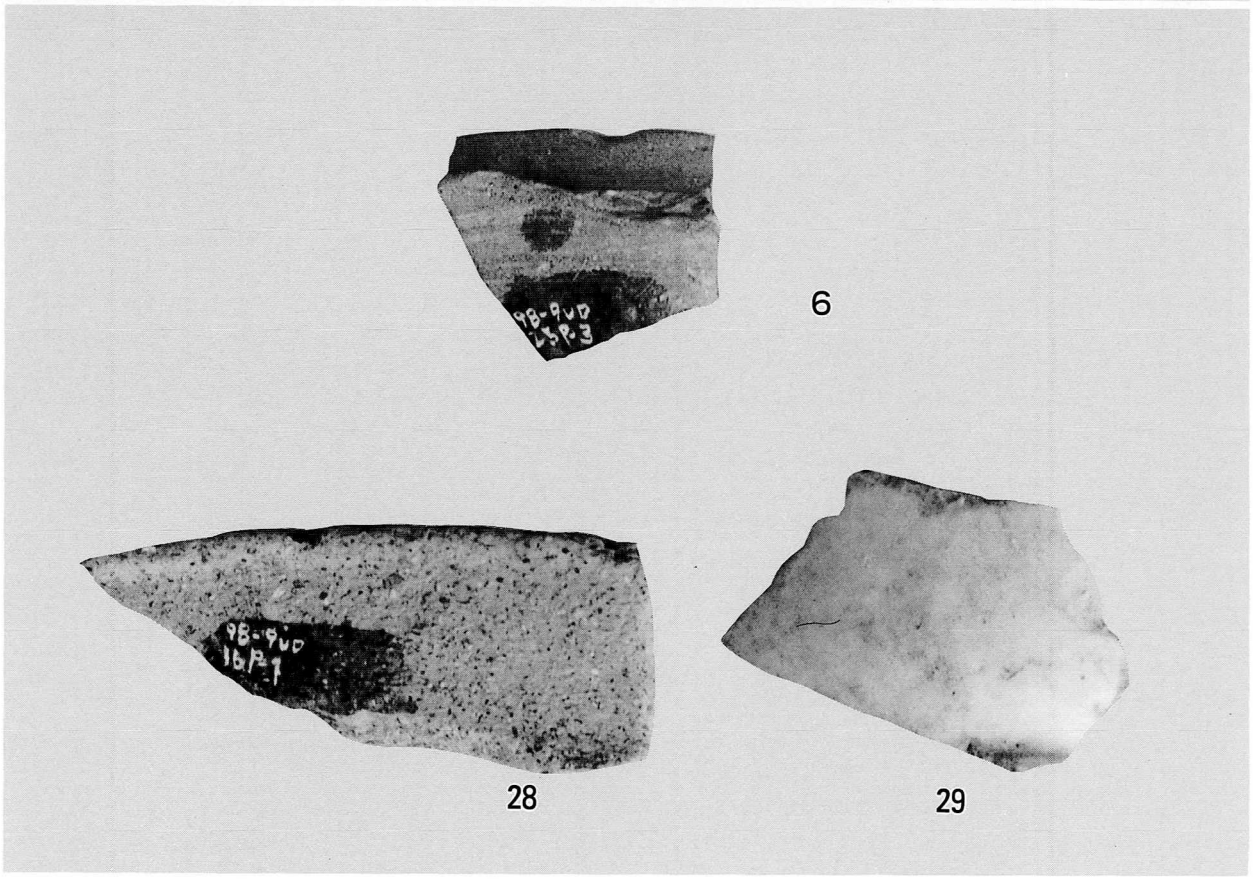
2．SD-3001土層断面（F-５区）　　南より



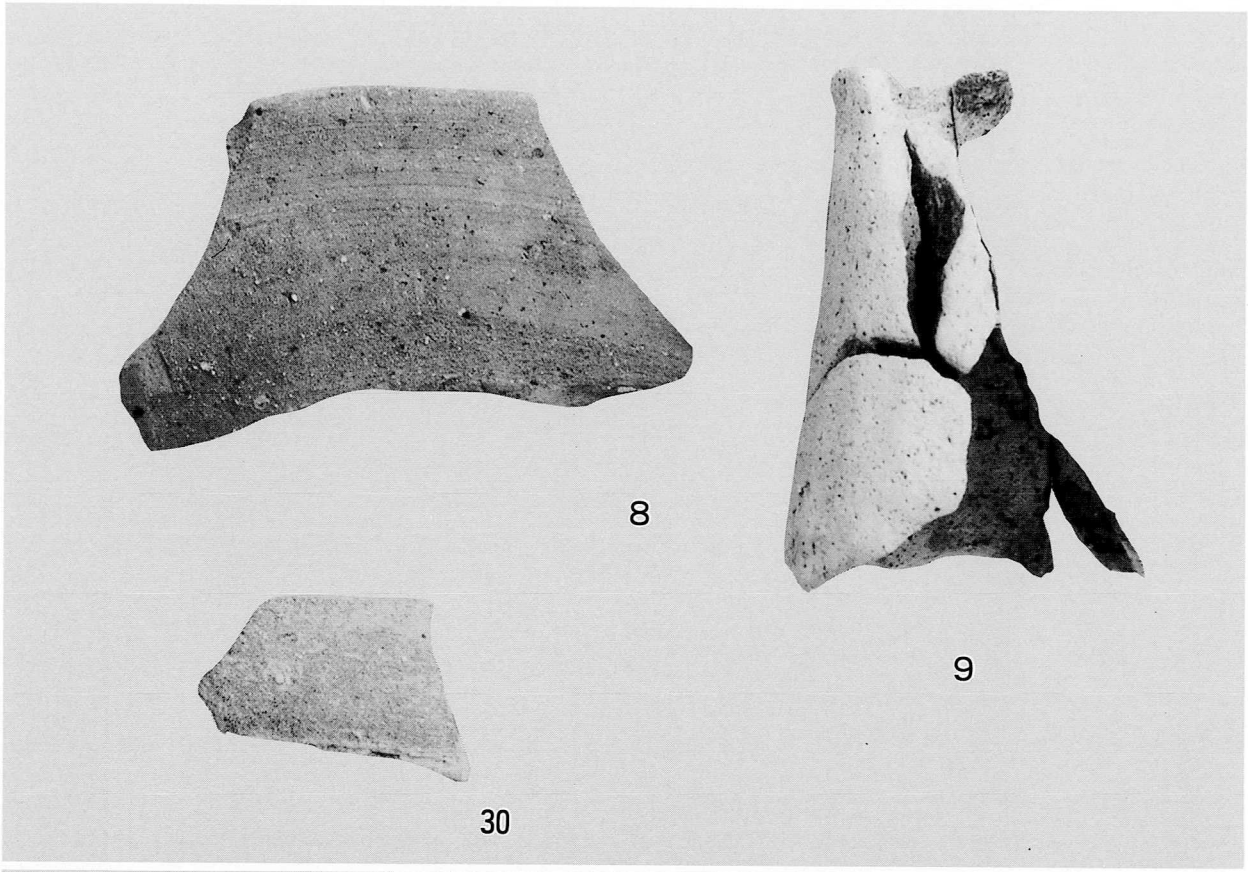
1．SD-3009土層断面（F-6区）　南より

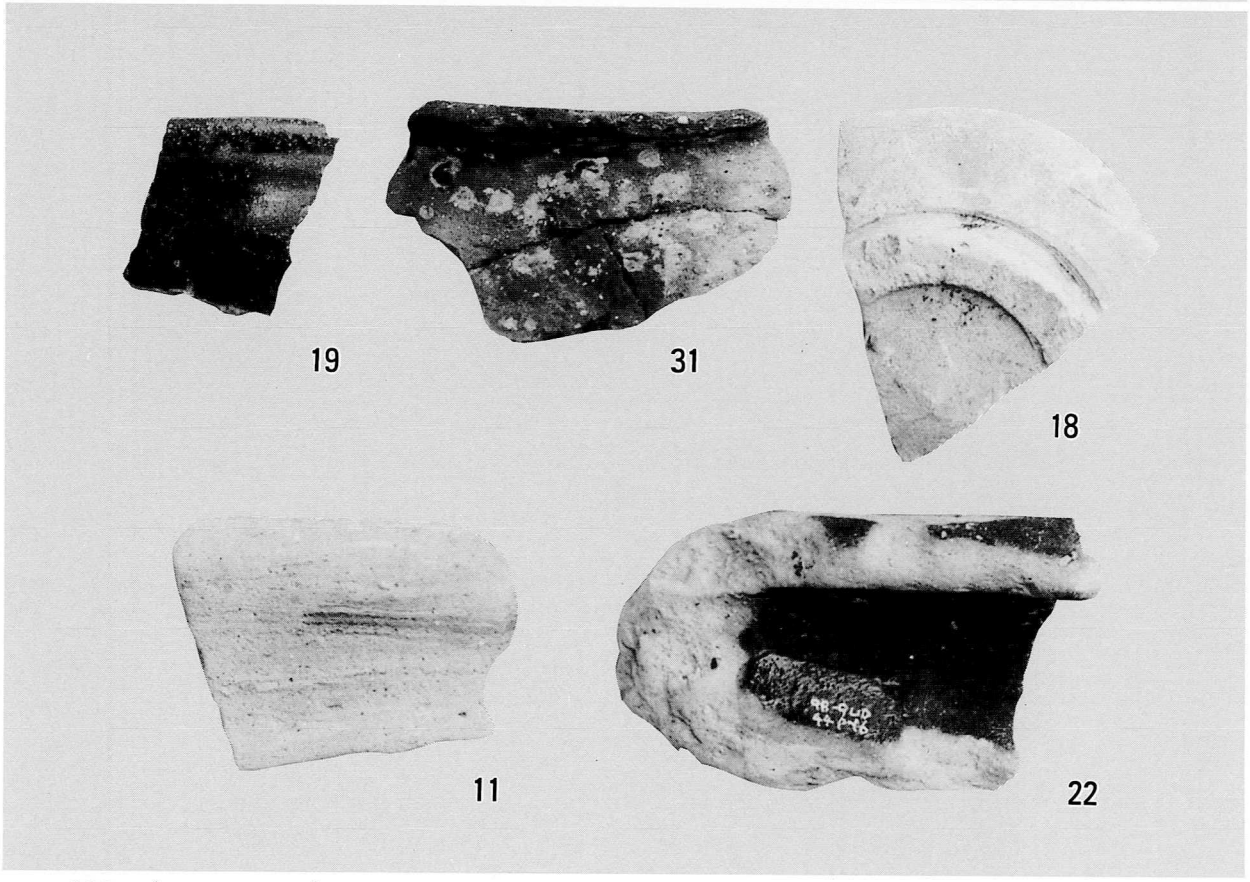
2．SD-3001土層断面（F-6区）　南より



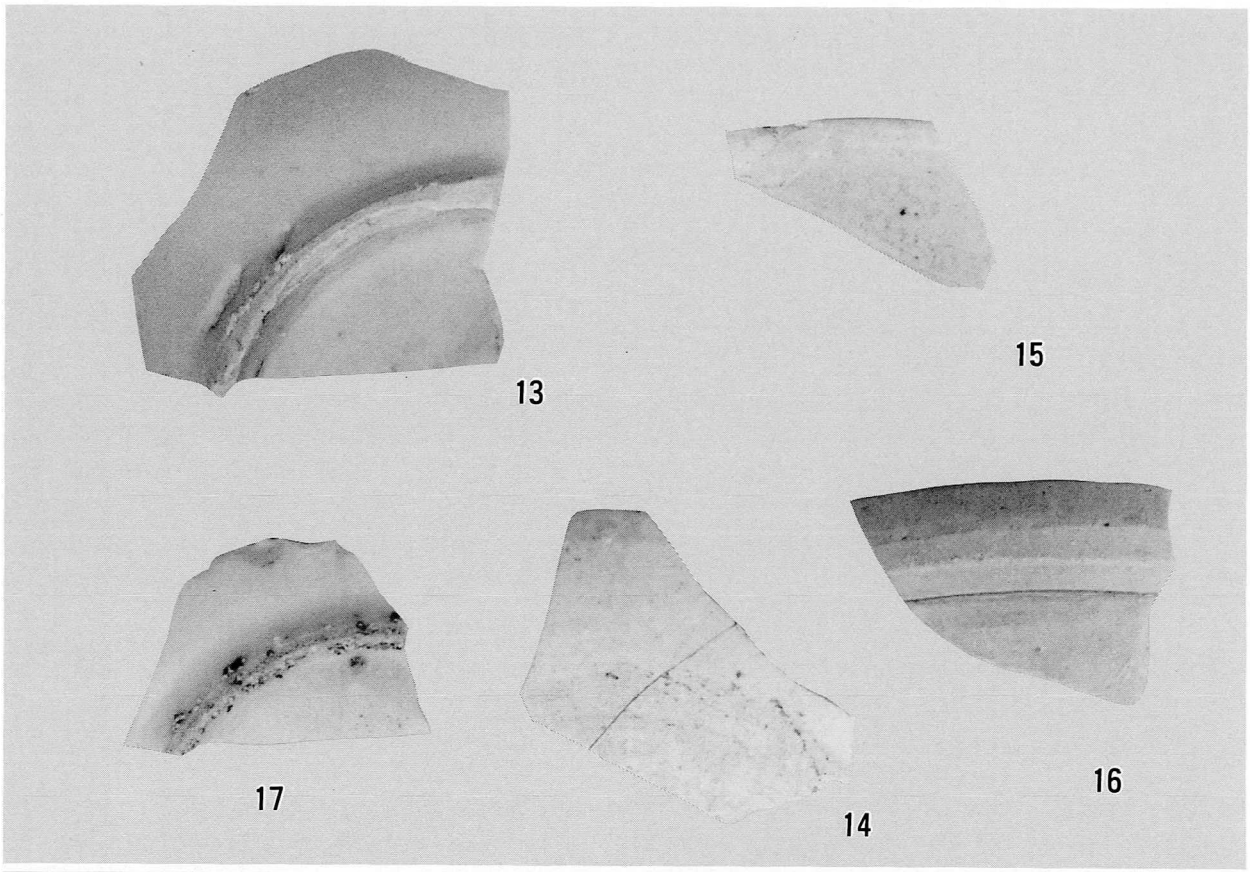


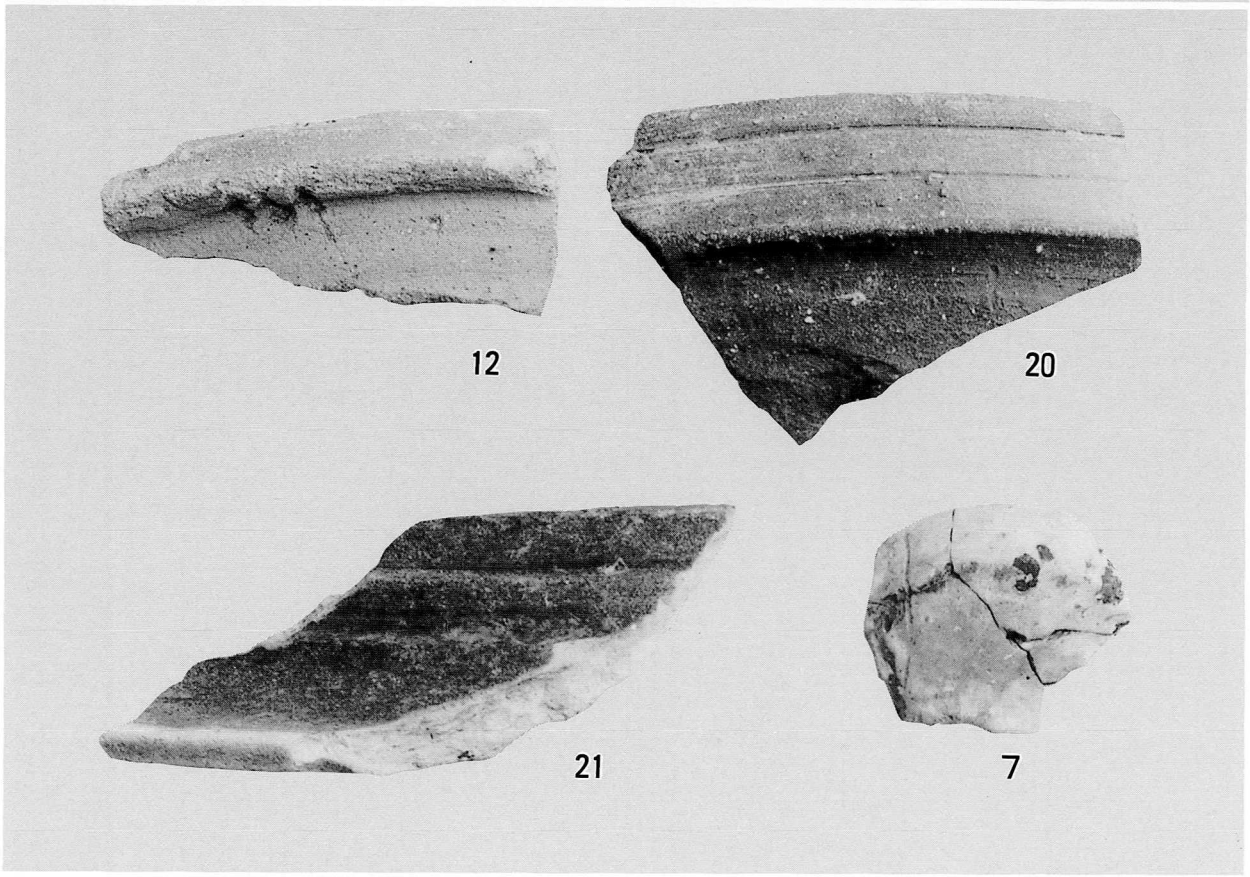
SD-1010（1）、SX-1014（2、4、5、10）
撹乱（6、28、29）



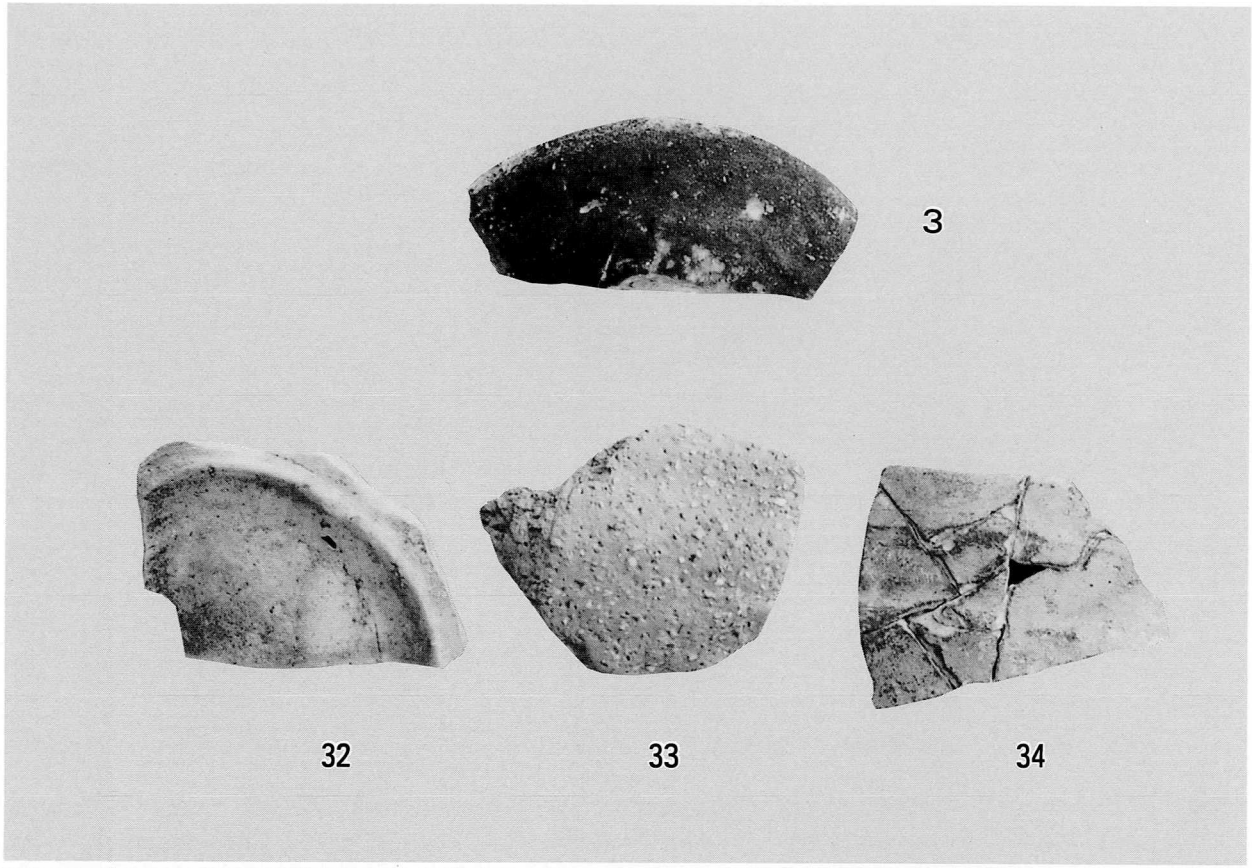


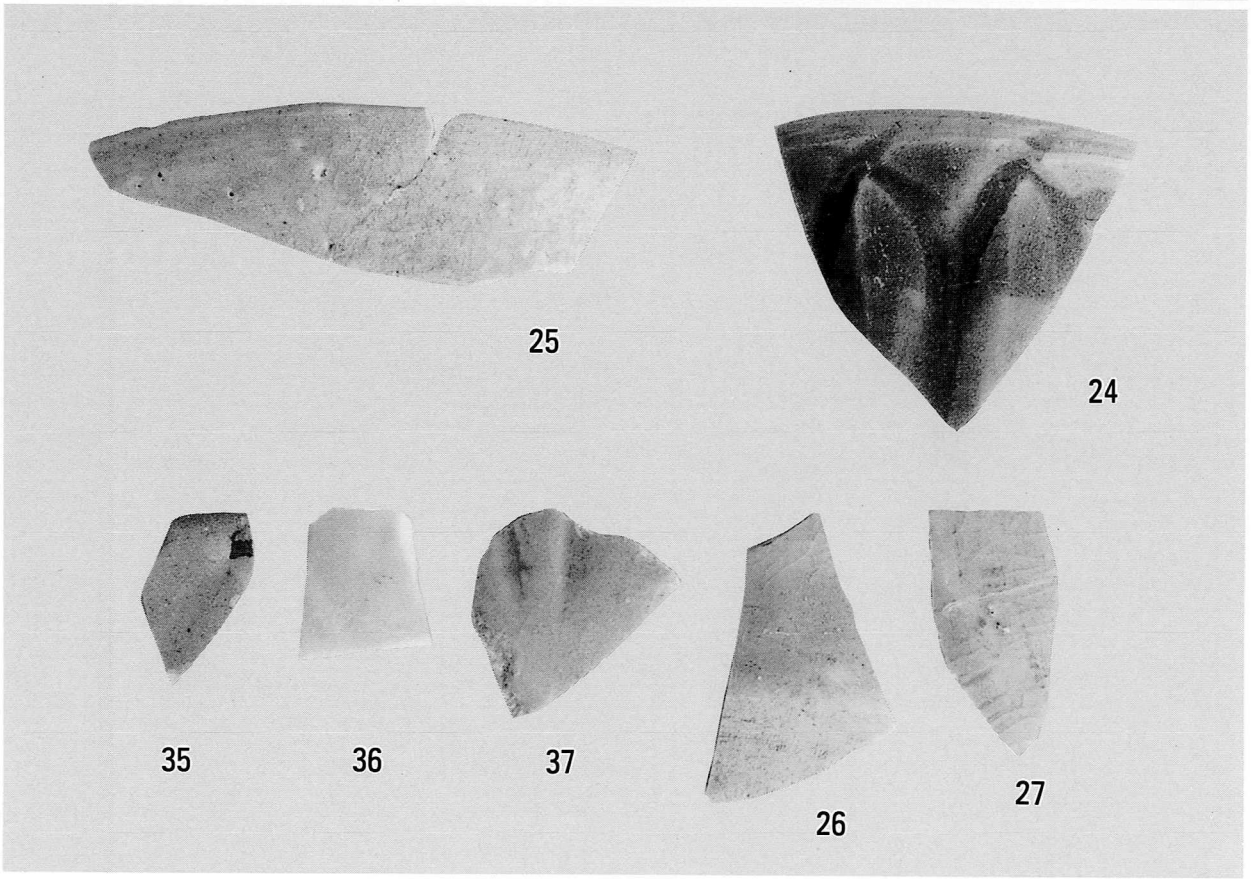
SD-2001（8、9、30）
第2層（11、18、19、22、31）





第２層（７、12～17、20、21）





SX-1014（26、27）
第３層（３、24、25、32～37）

貝塚市埋蔵文化財調査報告第50集

海塚遺跡発掘調査概要

発　行　日　平成11年3月31日
編集・発行　貝塚市教育委員会
　　大阪府貝塚市畠中1－17－1
印　　刷　摂河泉文庫
　　大阪府貝塚市北町20－18